

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

ほ乳類

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	△	カモシカ	<i>Capricornis crispus</i>	偶蹄目ウシ科	絶滅寸前種	準絶滅危惧種	なし	シカによる影響で分布個体数とも減少
2	△	ユビナガコウモリ	<i>Miniopterus fuliginosus</i>	翼手目 ヒナコウモリ科	絶滅寸前種	要注目種	なし	京都府で初確認されたが、生息場所が極めて限定されている。
3	▽	ミズラモグラ	<i>Euroscaptor mizura</i>	食虫目 モグラ科	絶滅危惧種	絶滅寸前種	準絶滅危惧 (NT)	原生林だけでなく、二次林にも生息することが明らかとなった。
4	▽	コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>	翼手目キクガシ ラコウモリ科	絶滅危惧種	絶滅寸前種	なし	従来の生息場所だけでなく、新たな生息地が確認されたため
5	△	モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>	翼手目 ヒナコウモリ科	絶滅危惧種	要注目種	なし	京都府で初確認されたが分布個体数とも絶滅危惧種相当
6	▽	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	翼手目キクガシ ラコウモリ科	準絶滅危惧種	絶滅寸前種	なし	従来の生息場所だけでなく、新たな生息地が確認されたため
7	○	サイゴクジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>	食虫目 トガリネズミ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	シカによる下層植生の衰退に伴う分布や個体数の減少
8	○	ハタネズミ	<i>Microtus montebelli</i>	齧歯目 ネズミ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	農道の整備、休耕地の減少、河川敷の樹林化による生息場所減少
9	▽	ホンシュウトガリネズミ	<i>Sorex shintou</i>	食虫目 トガリネズミ科	要注目種	絶滅危惧種	なし	1個体の確認だけでその後の情報がなく情報不足
10	○	ホンドキツネ	<i>Vulpes japonica</i>	食肉目 イヌ科	要注目種	リスト外	なし	人家周辺の確認減少や河川敷での分布域減少等生息状況の悪化
11	●	ウサギコウモリ	<i>Plecotus sacrimontis</i>	翼手目 ヒナコウモリ科	リスト外	要注目種	絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	府内で未確認のため除外

△ アップリスト種	3 種
▽ ダウンリスト種	4 種
○ 新規掲載された種	3 種
● リスト外に移行された種	1 種
☆ 和名変更など	0 種
計	11 種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

鳥類

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	△	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	ワシタカ目 ハヤブサ科	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	なし	府内であらたに繁殖が確認され、繁殖個体群の規模は極めて小さい
2	△	マミジロ	<i>Turdus sibiricus</i>	キツツキ目 ツグミ科	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	なし	府内であらたに繁殖が確認され、繁殖個体群の規模は極めて小さい
3	○	クロガモ	<i>Melanitta nigra</i>	カモ目 カモ科	絶滅危惧種	リスト外	なし	2002年では判断から漏れていた種で、極めて少数の越冬個体群
4	○	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	コウノトリ目 コウノトリ科	絶滅危惧種	リスト外	絶滅危惧IA類 (GR)	府内であらたに繁殖が確認され、繁殖個体群の規模は極めて小さい
5	▽	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	カモ目 カモ科	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	情報不足 (DD)	以前よりは記録が多いことが判明してカテゴリーを変える
6	▽	アオバト	<i>Sphenurus sieboldii</i>	ハト目 ハト科	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	なし	以前よりは記録が多いことが判明してカテゴリーを変える
7	▽	コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	スズメ目 ツグミ科	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	なし	以前よりは記録が多いことが判明してカテゴリーを変える
8	▽	ジュウイチ	<i>Cuculus fugax</i>	チドリ目 カッコウ科	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	なし	以前よりは記録が多いことが判明してカテゴリーを変える
9	▽	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	スズメ目 キバシリ科	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	なし	以前よりは記録が多いことが判明してカテゴリーを変える
10	○	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>	ペリカン目 ウ科	準絶滅危惧種	リスト外	絶滅危惧IB類 (EN)	2002年では判断から漏れていた種で、小規模の越冬個体群
11	○	ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>	カモ目 カモ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	2002年では判断から漏れていた種で、小規模の越冬個体群
12	○	ミコアイサ	<i>Mergus albellus</i>	カモ目 カモ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	2002年では判断から漏れていた種で、小規模の越冬個体群
13	○	カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>	カモ目 カモ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	2002年では判断から漏れていた種で、小規模の越冬個体群
14	○	ツリスガラ	<i>Remiz pendulinus</i>	キツツキ目 ツリスガラ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	2002年では判断から漏れていた種で、小規模の越冬個体群
15	○	ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	チドリ目 シギ科	準絶滅危惧種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	2002年では判断から漏れていた種で、小規模の越冬個体群
16	○	タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>	チドリ目 チドリ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	2002年では判断から漏れていた種で、小規模の越冬個体群
17	●	イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>	スズメ目 ツバメ科	リスト外	準絶滅危惧種	なし	減少はしておらず少なくはないのでリストから外す
18	●	タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	チドリ目 シギ科	リスト外	準絶滅危惧種	絶滅危惧II類 (VU)	減少はしておらず少なくはないのでリストから外す
19	●	オオマシコ	<i>Carpodacus roseus</i>	スズメ目 アトリ科	リスト外	準絶滅危惧種	なし	定期的に特定の地域に渡来はせず迷行種と判断してリストからははずす
20	●	コイカル	<i>Eophona migratoria</i>	スズメ目 アトリ科	リスト外	準絶滅危惧種	なし	定期的に特定の地域に渡来はせず迷行種と判断してリストからははずす
21	●	ホシガラス	<i>Nucifraga caryocatactes</i>	スズメ目 ガラス科	リスト外	準絶滅危惧種	なし	定期的に特定の地域に渡来はせず迷行種と判断してリストからははずす

△ アップリスト種	2 種
▽ ダウンリスト種	5 種
○ 新規掲載された種	9 種
● リスト外に移行された種	5 種
☆ 和名変更など	0 種
計	21 種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

は虫類

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	☆	ミナミイシガメ	<i>Mauremys mutica mutica</i> (Cantor, 1842)	カメ目 イシガメ科	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種	なし	シロイシガメから和名変更
2	△	ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus tigrinus</i> (Boie, 1826)	トカゲ目 ナミヘビ科	準絶滅危惧種	要注目種	なし	水田耕作の減少により餌となるカエル類が減少し、かつ生活に適切な微環境が消失したため、特に低地では激減した
3	○	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i> (Temminck et Schlegel, 1835)	カメ目 イシガメ科	要注目種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	分布域が減少し、個体数も減少しているため
4	●	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i> (Boie, 1826)	トカゲ目 ナミヘビ科	リスト外	要注目種	なし	調査の結果、生息地点数が増加し、他のヘビ類よりも個体数も多いと判定されたため。
5	☆	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i> (Wiegmann, 1834)	カメ目 スッポン科	要注目種	要注目種	情報不足 (DD)	スッポンから和名変更
6	☆	ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i> (Peters, 1864)	トカゲ目 トカゲ科	要注目種	要注目種	なし	トカゲ(ニホントカゲ)から和名変更, 学名変更
7	☆	ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i> (Boie, 1826)	トカゲ目 クサリヘビ科	要注目種	要注目種	なし	マムシから和名変更

△ アップリスト種	1 種
▽ ダウンリスト種	0 種
○ 新規掲載された種	1 種
● リスト外に移行された種	1 種
☆ 和名変更など	4 種
計	7 種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

両生類

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	☆	ナゴヤダルマガエル	<i>Rana porosa brevipoda</i> Ito, 1945	カエル目 アカガエル科	絶滅寸前種	絶滅寸前種	絶滅危惧IB類 (EN)	ダルマガエルから和名 変更
2	△	ハコネサンショウウオ	<i>Onychodactylus</i> <i>japonicus</i> (Houttuyn, 1786)	サンショウウオ目 サンショウウオ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	なし	分布域が予想以上に局 限され、生息域の改変 があればただちに局地 絶滅する可能性が高い ため。
3	△	ナガレタゴガエル	<i>Rana sakuraii</i> Matsui et Matsui, 1994	カエル目 アカガエル科	準絶滅危惧種	要注目種	なし	新たな生息地が確認さ れておらず、分布が局限 されるため。

△ アップリスト種	2 種
▽ ダウンリスト種	0 種
○ 新規掲載された種	0 種
● リスト外に移行された種	0 種
☆ 和名変更など	1 種
計	3 種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

淡水魚類

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	△	ヨドコガタスジシマ ドジョウ	<i>Cobitis minamorii yodoensis</i>	コイ目 ドジョウ科	絶滅種	絶滅寸前種	絶滅危惧 I B類 (EN)	スジシマドジョウ類の分 類変更(改訂)
2	☆	チュウガタスジシ マドジョウ	<i>Cobitis striata striata</i>	コイ目 ドジョウ科	絶滅寸前種	絶滅寸前種	絶滅危惧 II 類 (VU)	スジシマドジョウ類の分 類変更(改訂)
3	☆	サンヨウコガタスジ シマドジョウ	<i>Cobitis minamorii minamorii</i>	コイ目 ドジョウ科	絶滅寸前種	絶滅寸前種	絶滅危惧 IA類 (CR)	スジシマドジョウ類の分 類変更(改訂)
4	☆	タンゴスジシマド ジョウ	<i>Cobitis sp.</i>	コイ目 ドジョウ科	絶滅寸前種	絶滅寸前種	絶滅危惧 IA類 (CR)	スジシマドジョウ類の分 類変更(改訂)
5	○	カワヤツメ	<i>Lethenteron japonicum</i>	ヤツメナギ目 ヤツメナギ科	絶滅危惧種	リスト外	絶滅危惧 II 類 (VU)	採集記録の減少
6	☆	キタノメダカ	<i>Oryzias sakaizumii</i>	ダツ目 メダカ科	絶滅危惧種	絶滅危惧種	絶滅危惧 II 類 (VU)	メダカの分類変更(細分 化)
7	☆	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	ダツ目 メダカ科	絶滅危惧種	絶滅危惧種	絶滅危惧 II 類 (VU)	メダカの分類変更(細分 化)
8	○	ヨドゼゼラ	<i>Biwia yodoensis</i>	コイ目 コイ科	準絶滅危惧種	リスト外	絶滅危惧 IB類 (EN)	既存掲載種から別種に 分離
9	☆	ヌمامツ	<i>Candidia sieboldii</i>	コイ目 コイ科	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種	なし	カワムツA型から種名変 更
10	●	アカオビシマハゼ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i>	スズキ目 ハゼ科	リスト外	絶滅危惧種	なし	詳細調査により普通種で あることを確認

△ アップリスト種	1 種
▽ ダウンリスト種	0 種
○ 新規掲載された種	2 種
● リスト外に移行された種	1 種
☆ 和名変更など	6 種
計	10 種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

昆虫類

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	△	ベッコウトンボ	<i>Libellula angelina</i>	トンボ目 トンボ科	絶滅種	絶滅寸前種	絶滅危惧IA類 (CR)	府内で唯一の生息地であった京都市北区深泥池において、1971年を最後に見られなくなった。他に適した環境もなく絶滅したと思われる
2	△	マダラナニワトンボ	<i>Sympetrum maculatum</i>	トンボ目 トンボ科	絶滅種	絶滅寸前種	絶滅危惧I B類 (EN)	
3	△	オオキトンボ	<i>Sympetrum uniforme</i>	トンボ目 トンボ科	絶滅種	絶滅寸前種	絶滅危惧I B類 (EN)	2か所に生息していたが、1か所は1965年の記録を最後に、もう1か所はそれ以前から確認できなくなった。他所を含めて生息している可能性はないと判断した
4	▽	クビナガヨツボシゴミムシ	<i>Tinoderus singularis</i>	鞘翅目 ヨツボシゴミムシ科	絶滅寸前種	絶滅種	情報不足 (DD)	福知山市で生息が確認された
5	▽	コガタノゲンゴロウ	<i>Cybister tripunctatus orientalis</i>	鞘翅目 ゲンゴロウ科	絶滅寸前種	絶滅種	絶滅危惧II類 (VU)	南山城村で生息が確認されたとの新聞記事: 読売新聞(2011-9-23, 金)があり、ランクを下げた。環境省RDBでも、絶滅危惧I B類から絶滅危惧II類となった
6	△	ハネビロエゾトンボ	<i>Somatochlora clavata</i>	トンボ目 エゾトンボ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	絶滅危惧II類 (VU)	府内の確かな記録は1969年の一例だけであるが、再発見の可能性はあると思われるので絶滅寸前種とした
7	△	ムツボシクモバチ (ムツボシベッコウ)	<i>Anoplius viaticus</i>	膜翅目 ベッコウバチ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	準絶滅危惧 (NT)	近年の記録がなく、周辺の府県状況からも生息の可能性が低い
8	△	チャマルチビヒョウタンゴミムシ	<i>Dyschirius yanoi</i>	鞘翅目 オサムシ科	絶滅寸前種	要注目種	なし	府下唯一の既知産地: 宇治市天ヶ瀬でその後機会ある度に再確認に努めているが追加できない
9	○	ヒョウタンメダカハネカクシ	<i>Dianous japonicus</i>	鞘翅目 ハネカクシ科	絶滅寸前種	リスト外	なし	1980年代に八幡市で採集されたが、再発見できない
10	○	ルイスムネボソヨツメハネカクシ	<i>Boreaphilus lewisianus</i>	鞘翅目 ハネカクシ科	絶滅寸前種	リスト外	なし	1980年代に八幡市で採集されたが、再発見できない
11	○	オヨギカタビロアメンボ	<i>Xyphovelia japonica</i>	半翅目 カタビロアメンボ科	絶滅寸前種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	最近京都の舞鶴の1か所の池で新発見されたが、この場所が分布のほぼ北限であり、また個体数も少なく無翅型だけしか発見できず、分布の拡がり期待できないため、絶滅が危惧される。環境省のRDBでは絶滅危惧II類
12	○	トゲミケハラブトハナアブ	<i>Mallota tricolor</i>	双翅目 ハナアブ科	絶滅寸前種	リスト外	なし	幼虫は樹洞で生活する種であるため、自体自然度の高い森林に依存している。しかもこの種は原因不明ながら、他の似たような生活をする種がなお見られるのに対して、全国的に著しく減少していて、1960年以降ほとんど記録がない
13	○	スズキツリアブ	<i>Anastoechus suzuii</i>	双翅目 ツリアブ科	絶滅寸前種	リスト外	なし	1900年初頭の実態そのものも不明確だが、おそらく近隣のトラツリアブと同種と考えられる。しかしこの種もまた極めて稀で、日本で現在確かな産地は2か所。それも危機に瀕している。ハツタ類に寄生する種と考えられ、自然度の高い草原が生息の必須条件となろう
14	▽	カワラバッタ	<i>Eusphingonotus japonicus</i>	直翅目 バッタ科	絶滅危惧種	絶滅寸前種	なし	
15	△	アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>	トンボ目 ヤンマ科	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	準絶滅危惧 (NT)	本種の好む環境(ヨシの茂る池)が少なくなり、現存する生息地においても個体数が激減しているため絶滅危惧種とした
16	△	ミズスマシ	<i>Gynus japonicus</i>	鞘翅目 ミズスマシ科	絶滅危惧種	要注目種	絶滅危惧II類 (VU)	環境省のRD第4次見直しで「絶滅危惧II類」に指定されたことを受け、最近の採集例を調べたが、2003年に夜久野町(現福知山市)で採集されて以来報告がないこと、今回の調査と情報提供でも発見されていない
17	○	イトアメンボ	<i>Hydrometra albolineata</i>	半翅目 イトアメンボ科	絶滅危惧種	リスト外	絶滅危惧II類 (VU)	全国的に個体数の減少が報告されていて、2011年に京都市で新たな産地が発見されたが京都市でも現在の生息地は1か所だけであり、絶滅が危惧される。環境省の絶滅危惧II類
18	○	ツノヒゲシギアブ	<i>Arthroceras japonicum</i>	双翅目 シギアブ科	絶滅危惧種	リスト外	なし	溪流性の種と思われ記載時の産地のひとつにも挙げられているが、最近の発見例を聞かない

19	○	シバカワツリアブ	<i>Bombylius shibakawae</i>	双翅目 ツリアブ科	絶滅危惧種	リスト外	なし	平地性の種で、以前から局所的であったが、現在産地は狭まりつつある。最近の京都での採集例を聞かない
20	○	セマダラミギワバエ	<i>Oedenopsis isis</i>	双翅目 ミギワバエ科	絶滅危惧種	リスト外	なし	1970年代は、本州・四国・九州の数箇所から記録されているが、2000年代初めに京都で再発見されたのを最後に、全国的にまったく記録がない
21	○	アワウミワライミギワバエ	<i>Parydra pulvisa</i>	双翅目 ミギワバエ科	絶滅危惧種	リスト外	なし	1970年代琵琶湖北部で発見された後、2000年に京都宮津で記録されたのが唯一の記録である。非常に局所的な種と思われる
22	○	マルオクロコガネ	<i>Holotrichia danjoensis</i>	鞘翅目 コガネムシ科	絶滅危惧種	リスト外	なし	従来京都府で記録がなかったが、2011年宇治川沿いの桃山南団地で1匹が採集され、専門家が同定した
23	○	オオキイロコガネ	<i>Pollaplonyx flavidus</i>	鞘翅目 コガネムシ科	絶滅危惧種	リスト外	なし	2012年に京都で初めて、福知山市夜久野町で採集された
24	△	ギフチョウ	<i>Luehdorfia japonica</i>	鱗翅目 アゲハチョウ科	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	現在、府南部地域では保護された1か所を除き絶滅したと思われ、また北部地域でもシカの草食害により生息地の荒廃が進み、近年個体数が減少している。
25	△	ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta betheseba</i>	鱗翅目 アゲハチョウ科	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	寄主植物であるマメ科のカワラケツメイが主に生育する河川周辺環境の荒廃により、近年京都府ではほとんど見られなくなった。
26	○	ウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome laodice japonica</i>	鱗翅目 タテハチョウ科	絶滅危惧種	リスト外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	草原性のチョウで、山城地域では主要な生息地である木津川河川敷にいたが、1990年代から見られなくなったとの報告があり、現在でも生息を確認できないことから絶滅が危惧される。
27	○	シロスジコシブトハナバチ	<i>Amegilla quadrifascia</i>	膜翅目 ハナバチ科	絶滅危惧種	リスト外	なし	個体数の多いものではないが、主な生息環境の海浜砂地および蜜源植物となる海浜植物の減少とともに、確認例がより少なくなっている
28	▽	スギハラクモバチ (スギハラベッコウ)	<i>Leptodialepis sugiharai</i>	膜翅目 ベッコウバチ科	準絶滅危惧種	絶滅寸前種	情報不足 (DD)	個体数は少ないものの、社寺林などある程度の林がある場所では生息を確認されることが多いためランクを下げた
29	▽	キイロヤマトンボ	<i>Macromia daimoji</i>	トンボ目 ヤマトンボ科	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	準絶滅危惧 (NT)	個体数は少ないが確実な生息地が数か所見つかかり、生息環境もやや安定しているため準絶滅危惧種へ変更した
30	○	ヒラヤマミズアブ	<i>Odontomyia hirayamae</i>	双翅目 ミズアブ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	自然度の高い湿地の減少とともに、近年記録がない
31	○	マエグロシギアブ	<i>Rhagio costimacula</i>	双翅目 シギアブ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	かつて北山山地では普通に見られた種であったが、自然林の縮小とともに最近の発見例がない
32	○	ニセクチグロヒラタアブ	<i>Syrphus ventralis</i>	双翅目 ハナアブ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	ヒラタアブの仲間としては分布域が狭く、西南日本に固有の種で、従来も数箇所の産地しか知られていない。京都では20年以上にわたって、記録が途絶えている
33	▽	スイドウトビケラ (旧称 キョウイワトビケラ)	<i>Neureclipsis mandjurica</i> (旧称 <i>Neucentropus manjuricus</i>)	毛翅目 イワトビケラ科	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	なし	分布域は局所的ではあるが、確実な生息地が見つかり、生息環境もやや安定しているため準絶滅危惧種へ変更した
34	○	クロハラナガハナアブ	<i>Chalcosyrphus longus</i>	双翅目 ハナアブ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	大型の顕著な種で、朽木に生息する。京都では最近の記録がなく、全国的にも減少の傾向にある
35	○	ヤマトクチブトメバエ	<i>Leopoldius japonicus</i>	双翅目 メバエ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	全国的に発見例が極めて少ない種である。京都では芦生が唯一の産地であるが、存続に不安がある
36	○	クロトゲミギワバエ	<i>Notiphila caudata</i>	双翅目 ミギワバエ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	幼虫は有機堆積物中で生活する種で、自然度の高い湿地環境にのみ見られる。本種は北方性らしく、本州の中部以南での記録は少ない。京都では今のところ深泥が池しか記録がない。ただし池の、特に浮島においては、異常な高密度で生息している。ハナダカマガリモンハナアブと同様に、寒冷期の遺存種であろう
37	○	ハナダカバチ	<i>Bembix niponica</i>	膜翅目 アナバチ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	海浜の砂地では生息が確認されるものの、営巣地となる砂地の減少とともに、生息地は減少している
38		ヒメキマダラヒカゲ	<i>Zophoessa callipteris</i>	鱗翅目 タテハチョウ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	山地樹林を生息地とし、京都北山に比較的多く生息していたが、近年シカの食害と活動と思われる寄主となるササ類の枯死によって、急速に個体数が減少している。

39	▽	オオムツボシタマムシ	<i>Chrysobothris ohbayashii</i>	鞘翅目 タマムシ科	要注目種	絶滅寸前種	なし	舞鶴市、亀岡市、伏見区、天王山などで採集例の報告があり、当面は絶滅が危惧される状況でない判断する
40	▽	クロキノゴミムシダマシ	<i>Platydemia fumosum fumosum</i>	鞘翅目 ゴミムシダマシ科	要注目種	絶滅寸前種	なし	舞鶴市、宇治市などで確認され、宇治市天ヶ瀬でエノキの立枯木から多数採集された
41	▽	ヨツモンチビカッコウムシ	<i>Isoclerus pictus</i>	鞘翅目 カッコウムシ科	要注目種	絶滅危惧種	なし	新たに大江山、天王山などで確認された
42	▽	ツツヒラタムシ	<i>Ancistrina apicalis</i>	鞘翅目 ツツヒラタムシ科	要注目種	絶滅危惧種	なし	新たに舞鶴市、亀岡市などで確認された
43	▽	トモンハナバチ	<i>Anthidium septemspinosum</i>	膜翅目 ハキリバチ亜科	要注目種	準絶滅危惧種	なし	河川敷や都市部の公園でも確認されており、個体数も比較的多いためランクを下げた
44	○	セスジイトンボ	<i>Paracercion hieroglyphicum</i>	トンボ目 イトンボ科	要注目種	リスト外	なし	府下に広く分布する普通種であったが、生息地が激減している
45	○	オオイトンボ	<i>Paracercion sieboldii</i>	トンボ目 イトンボ科	要注目種	リスト外	なし	府下に広く分布するが、生息地が減少している
46	○	ムスジイトンボ	<i>Paracercion sexlineatum</i>	トンボ目 イトンボ科	要注目種	リスト外	なし	生息地が限られ個体数も少ない。10~20年周期で多く発生することがある
47	○	カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i>	トンボ目 ヤンマ科	要注目種	リスト外	なし	かつては普通種であったが、水田地帯の環境変化等により激減している
48	○	ヒラサナエ	<i>Davidius moiwanus taruii</i>	トンボ目 サナエトンボ科	要注目種	リスト外	なし	生息地が局地的で、環境変化による生息地減少の恐れがある
49	○	ヒメサナエ	<i>Sinogomphus flavolimbatus</i>	トンボ目 サナエトンボ科	要注目種	リスト外	なし	産地が少なく、生息している河川の環境汚染が進んでいる
50	○	タバサナエ	<i>Trigomphus citimus tabei</i>	トンボ目 サナエトンボ科	要注目種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	平地~山間部に生息しているが、生息地は多くない
51	○	オグマサナエ	<i>Trigomphus ogumai</i>	トンボ目 サナエトンボ科	要注目種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	開発および環境変化により生息地の激減、個体数の減少が著しい
52	○	コサナエ	<i>Trigomphus melampus</i>	トンボ目 サナエトンボ科	要注目種	リスト外	なし	生息地は局地的で、開発および環境悪化による消滅の恐れがある
53	○	フタスジサナエ	<i>Trigomphus interruptus</i>	トンボ目 サナエトンボ科	要注目種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	開発および環境変化により生息地の減少、個体数の減少が見られる
54	○	ミヤマサナエ	<i>Anisogomphus maacki</i>	トンボ目 サナエトンボ科	要注目種	リスト外	なし	幼虫の生息域である河川中流域の環境悪化が懸念される
55	○	オオサカサナエ	<i>Stylurus annulatus</i>	トンボ目 サナエトンボ科	要注目種	リスト外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	分布が限られており、河川の環境悪化により個体数が減少している
56	○	メガネサナエ	<i>Stylurus oculatus</i>	トンボ目 サナエトンボ科	要注目種	リスト外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	分布が限られており、河川の環境悪化により個体数が減少している
57	○	マイコアカネ	<i>Sympetrum kunckeli</i>	トンボ目 トンボ科	要注目種	リスト外	なし	全国各地で減少しており、府下においても多産地がなくなり生息地も少ない
58	○	ミヤマフキバツタ種群	<i>Parapodisma</i> spp.	直翅目 バツタ科	要注目種	リスト外	なし	移動性が乏しく、地域固有の個体群が形成されており、京都府下はそれらの分布の境界を含んでいるため、今後の推移および近隣府県の個体群との関係性を注目したい
59	○	アエカヨコモンヒラタアブ	<i>Epistrophe aeka</i>	双翅目 ハナアブ科	要注目種	リスト外	なし	京都貴船がタイプ産地。もともと少ない種で、京都では最近の記録が見当たらない
60	○	ニノミヤトビクチミギワバエ	<i>Brachydeutera ibari</i>	双翅目 ミギワバエ科	要注目種	リスト外	なし	かつては市街地にも普通な種であったという。現在京都では、山地の溪流や中流域に点々と生息しているにすぎない
61	○	ヤマトミギワバエ	<i>Ephydra japonica</i>	双翅目 ミギワバエ科	要注目種	リスト外	なし	海浜から、汽水域を主体に生息する種。かつては群生したというが、環境の変化とともに個体数を減じ、今は採集例がわずかしかない
62	○	ラカンミギワバエ	<i>Dryxo nudicorpus</i>	双翅目 ミギワバエ科	要注目種	リスト外	なし	清流に生息し、富栄養的環境では姿を消す。1950年代には桂川でも見られたが、現在は北山山地の記録のみ
63	○	ミドロミズアブ	<i>Odontomyia filipjewi</i>	双翅目 ミズアブ科	要注目種	リスト外	なし	全国的に数例の記録しかない種。自然度の高い平地の湿地に見られる。京都では深泥が池の一例のみ
64	○	ギンツバメ	<i>Acropteris iphiata</i>	鱗翅目 ツバメガ科	要注目種	リスト外	なし	幼虫はガガイモ科植物を寄主とするが、近年個体数が減少していること、草地環境の指標昆虫として、見守ることとする
65	○	キマダラコヤガ	<i>Emmelia trabealis</i>	鱗翅目 ヤガ科	要注目種	リスト外	なし	主に河川敷に生息し、近年の河川敷整備のため、全国的に個体数が減少しているため、選定した。秋田県でも絶滅危惧Ⅱ類となっている

66	○	オオシモフリスズメ	<i>Langia zenzerooides</i>	鱗翅目 スズメガ科	要注目種	リスト外	なし	幼虫はウメやモモの葉を食べる大型のスズメガであるが、近年は個体数減少がみられ、滋賀、大阪、兵庫でもランクは異なるが、レッドリストに加えられている。
67	○	アシナガオオキバハネカクシ	<i>Pseudoxyporus longipes</i>	鞘翅目 ハネカクシ科	要注目種	リスト外	なし	近年の記録が少なくなっている
68	●	アオスジハナバチ	<i>Nomia punctulata</i>	膜翅目 コハナバチ科	リスト外	絶滅危惧種	なし	府下に広く分布が確認され、個体数も少なくないためランクを下げた
69	●	ミヤビシベニボタル	<i>Dictyoptera ohbayashii</i>	鞘翅目 ベニボタル科	リスト外	絶滅危惧種	なし	他種の誤認と判明したので、府下目録から削除する
70	●	コマダラウスバカゲロウ	<i>Dendroleon jezoensis</i>	脈翅目 ウスバカゲロウ科	リスト外	準絶滅危惧種	なし	地衣類に擬態しているため一般の調査では確認され難い。しかし本種を目的とする調査では府下各地に広く生息していることが明らかになったのでランクを下げた
71	●	コカスリウスバカゲロウ	<i>Distoleon contubernalis</i>	脈翅目 ウスバカゲロウ科	リスト外	要注目種	なし	海浜に比較的広く分布し、個体数も多いためランクを下げた

△	アップリスト種	10 種
▽	ダウンリスト種	11 種
○	新規掲載された種	45 種
●	リスト外に移行された種	4 種
☆	和名変更など	0 種
	計	70 種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

クモ類

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	○	コガタコノハグモ	<i>Enoplognatha lordosa</i>	クモ目 ヒメグモ科	要注目種	リスト外	なし	中国の江西省および湖北省で1992年に記載された種である。日本では、1975-76年の冬に京都府久美浜町で京都林試の職員によって1♂が、1978年に佐賀県で1♂が採集されている。♀は確認されていない。同属別種のヤマトコノハグモやカレハヒメグモに誤同定されている可能性もあり、今後検討が必要である
2	○	アシュウサラグモ		クモ目 サラグモ科	要注目種	リスト外	なし	1958年に京都府美山町の京都大学演習林で採集され、記載されたものである。東京では1967年に養沢で1♀が採集されているが分布地は局限されている
3	●	ヤマシログモ	<i>Scytodes striatipes</i>	クモ目 ヤマシログモ科	リスト外	絶滅危惧種	なし	古い記録で同定に疑問があり、また採集地が比叡山で京都府か滋賀県側になるか判断できなかったため、今回京都府の分布リストから除外する

△ アップリスト種	0 種
▽ ダウンリスト種	0 種
○ 新規掲載された種	2 種
● リスト外に移行された種	1 種
☆ 和名変更など	0 種
計	3 種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照

甲殻類およびその他の淡水産無脊椎動物

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	△	カンテンコケムシ	<i>Asajirella gelatinosa</i>	えん口目 ヒメテンコケムシ科	絶滅種	絶滅寸前種	なし	1980年代に桂離宮で記録されて以降確認されていない
2	△	ヌマエビ	<i>Paratya compressa compressa</i>	エビ目 ヌマエビ科	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	なし	既存の産地では中国産のカワリヌマエビに置き換わり在来のヌマエビの分布域はきわめて限定的となっている。
3	○	チスイビル	<i>Hirudo nipponia</i>	吻無蛭目 ヒルド科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	圃場整備による水路の乾燥化とや乾田化などの理由によって、府内では全く見られなくなったことから絶滅した可能性もある。
4	▽	モクズガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>	エビ目 イワガニ科	要注目種	準絶滅危惧種	なし	各地河川で確認が相次いでいるため、絶滅の危惧は過大評価であったと判断される
5	○	ミナミヌマエビ	<i>Neocaridina denticulata denticulata</i>	エビ目 ヌマエビ科	要注目種	リスト外	なし	中国産のカワリヌマエビと競合するために、すでに置き換わったり交雑が進んだ可能性があるが、実態は不明である。
6	●	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>	エビ目 サワガニ科	リスト外	要注目種	なし	各地河川で確認が相次いでいるため、要注目は過大評価であったと判断される。

△ アップリスト種	2 種
▽ ダウンリスト種	1 種
○ 新規掲載された種	2 種
● リスト外に移行された種	1 種
☆ 和名変更など	0 種
計	6 種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

陸産貝類

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	△	ホラアナゴマオカチグサ	<i>Cavernacmella kuzuensis</i>	新生腹足目カワザンショウガイ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	石灰洞内に生息する種で、地理的分布域は広域ながら、地域ごとに遺伝的分化が著しいことが予備的に判明しており、各個体群の保全的価値がより高まると考えられる。
2	△	ニクイロシブキツボ	<i>Fukuia kurodai</i>	新生腹足目イツマデガイ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	準絶滅危惧 (NT)	生息地情報が増える可能性に期待したが新たな生息地は見えない。京都北山の主要な生息地では、シカの増加による森林植生の激変を受け、本種が必要とする特殊な水環境が損なわれるおそれがある。
3	△	ヒロクチコギセル	<i>Reinia variegata</i>	異鰓目キセルガイ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	生息地情報が増える可能性に期待したが新たな生息地は見えない。主要な生息地の島嶼では、個体数が減少傾向にある。
4	△	トサビロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis tosanus</i>	異鰓目ナンバンマイマイ科	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	絶滅危惧 II 類 (VU)	既知の島嶼での生息密度が著しく低く、林床の環境がオオミズナギドリや苦槠やドブネズミの生息によって、劣化する可能性が懸念される。
5	△	ゴマオカタニシ	<i>Georissa japonica</i>	アマオブネ型目ゴマオカタニシ科	準絶滅危惧種	要注目種	準絶滅危惧 (NT)	既知の生息地が石灰洞周辺に限られ、シカの増加による植生の変化が生息に影響を及ぼす可能性が想定される。
6	△	シリオレトノサマガセル	<i>Mundiphaedusa decapitata</i>	異鰓目キセルガイ科	準絶滅危惧種	要注目種	準絶滅危惧 (NT)	地理的分布が府内では都市近郊の低山に局限されているうえ、シカ等の増加による植生・林床変化が生息環境の劣化につながる可能性が想定される。
7	△	オオコウラナメクジ	<i>Nipponarion carinatus</i>	異鰓目オオコウラナメクジ科	準絶滅危惧種	要注目種	準絶滅危惧 (NT)	地理的分布域から推測される潜在的な生息域は比較的広いが、既知の生息地はきわめて限定され、しかも主たる生息環境となる落葉広葉樹林は、シカ等の増加による植生・林床変化が生息環境の劣化につながる可能性が想定される。
8	△	ヤマコウラナメクジ	<i>Nipponolimax monticola</i>	異鰓目オオコウラナメクジ科	準絶滅危惧種	要注目種	準絶滅危惧 (NT)	地理的分布域から推測される潜在的な生息域は比較的広いが、既知の生息地はきわめて限定され、しかも主たる生息環境となる落葉広葉樹林は、シカ等の増加による植生・林床変化が生息環境の劣化につながる可能性が想定される。
9	△	カサネシタラガイ	<i>Sitalina insignis</i>	異鰓目ベッコウマイマイ科	準絶滅危惧種	要注目種	準絶滅危惧 (NT)	地理的分布域から推測される潜在的な生息域は比較的広いが、既知の生息地はきわめて限定され、しかも主たる生息環境となる落葉広葉樹林は、シカ等の増加による植生・林床変化が生息環境の劣化につながる可能性が想定される。
10	△	ケハダビロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis fragilis</i>	異鰓目ナンバンマイマイ科	準絶滅危惧種	要注目種	準絶滅危惧 (NT)	地理的分布域から推測される潜在的な生息域は比較的広いが、既知の生息地はきわめて限定され、しかも主たる生息環境となる落葉広葉樹林は、シカ等の増加による植生・林床変化が生息環境の劣化につながる可能性が想定される。
11	△	イブキクロイワマイマイ	<i>Euhadra senckenbergiana minoensis</i>	異鰓目オナジマイマイ科	準絶滅危惧種	要注目種	なし	ミノマイマイ改め既知の生息地が局限され、しかも集落や河川に近接した環境であるため、人為的な環境劣化による生息状況の悪化が懸念される。本種は、文献では「ミノマイマイ」として扱われていたが、ミノマイマイはイブキクロイワマイマイとともにクロイワマイマイの地方型で、主として岐阜県側の平地に分布する大型の平地型の呼称であるのに対し、府内の既知の生息地はある程度山がちな環境で形態的にも滋賀県のイブキクロイワマイマイに通じる特徴を持つために、イブキクロイワマイマイとした。
12	○	ヤマタカマイマイ	<i>Satsuma papilliformis</i>	異鰓目ナンバンマイマイ科	準絶滅危惧種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	地理的分布域から推測される潜在的な生息域は比較的広いが、既知の生息地はきわめて限定され、しかも主たる生息環境となる落葉広葉樹林は、シカ等の増加による植生・林床変化が生息環境の劣化につながる可能性が想定される。
13	○	ハマシノミガイ	<i>Metampus nuxeastaneus</i>	異鰓目オカミガイ科	要注目種	リスト外	なし	海浜性の種で新たに生息情報が得られた。現在の生息地は断片的だが、日本海側での生息地は局限されていることから、情報が十分得られた場合も、保全的価値が高い状況が続くと推測されることから、「情報不足」の意味で要注目種とした。

△	アップリスト種	11 種
▽	ダウンリスト種	0 種
○	新規掲載された種	2 種
●	リスト外に移行された種	0 種
☆	和名変更など	0 種
	計	13 種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

淡水産貝類

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	△	ナガタニシ	<i>Heterogen longispira</i>	新生腹足目 タニシ科	絶滅種	絶滅寸前種	準絶滅危惧 (NT)	過去50年以上、発見記録がない。 疏水(黒田, 1962)
2	△	オウミガイ	<i>Radix onychia</i>	異鰓目 モノアラガイ科	絶滅種	絶滅寸前種	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	過去50年以上、発見記録がない。 疏水(瀧, 1928), 宇治川(黒田, 1962)
3	△	カワネジガイ	<i>Camptoceras hirasei</i>	異鰓目 ヒラマキガイ科	絶滅種	絶滅寸前種	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	過去50年以上、発見記録がない。 大沢池(窪田, 1962), 巨椋池(黒田, 1962), 疏水(荻野, 1964)
4	△	ヒダリマキモノアラガイ	<i>Culmenella prashadi</i>	異鰓目 ヒラマキガイ科	絶滅種	絶滅寸前種	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	過去50年以上、発見記録がない。 巨椋池(黒田, 1962)
5	△	オトコタテボシガイ	<i>Inversium reinianus</i>	イシガイ目 イシガイ科	絶滅種	絶滅寸前種	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	過去50年以上、発見記録がない。 巨椋池(黒田, 1962)
6	△	マメタニシ	<i>Parafossarulus manchouricus japonicus</i>	新生腹足目 エゾマメタニシ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	巨椋池(黒田, 1962), 深泥池(1990年: 環境省, 2002), 亀岡市 深泥池では過去20年ほど記録がない。
7	△	ナカセコカワニナ	<i>Biwamelania nakasekoeae</i>	新生腹足目 カワニナ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	疏水(1980年:環境省, 2002), 宇治川 分布域が縮小している(紀平・小林, 2004)
8	△	カドヒラマキガイ	<i>Choanomphalodes perstriatulum</i>	異鰓目 ヒラマキガイ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	準絶滅危惧 (NT)	疏水(黒田, 1962) 過去50年以上記録はないが、小型種な のでまだ生息している可能性がある。
9	△	オグラヌマガイ	<i>Oguranodonta ogurae</i>	イシガイ目 イシガイ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	巨椋池(黒田, 1962) 過去50年以上記録はないが、宇治川・淀 川の深みに生息している可能性がある。
10	△	イケチョウガイ	<i>Hyriopsis schlegeli</i>	イシガイ目 イシガイ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	宇治川(1990年:環境省, 2002) 過去20年ほど記録がない。
11	△	セタシジミ	<i>Corbicula sandai</i>	ザルガイ目 シジミ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	疏水(1979年:環境省, 2002), 宇治川 (1990年:環境省, 2002) 過去20年ほど記録がない。
12	○	ヤマトカワニナ	<i>Biwamelania niponica</i>	新生腹足目 カワニナ科	絶滅寸前種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	疏水(1979年:環境省, 2002), 宇治川 (1991年:環境省, 2002) 疏水では増えている(紀平ほか, 2003)とさ れているが、過去20年ほど記録がない。
13	○	タテヒダカワニナ	<i>Biwamelania declipiens</i>	新生腹足目 カワニナ科	絶滅寸前種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	宇治川(1990年:環境省, 2002) 過去20年ほど記録がない。
14	○	カワシンジュガイ	<i>Margaritifera laevis</i>	イシガイ目カワシン ジュガイ科	絶滅寸前種	リスト外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	上林川(1983年:近藤・綾部環境問題研 究会, 2004) 新たに生息が確認されたが、その後30年 ほど記録がない
15	△	クロダカワニナ	<i>Semisulcospira kurodai</i>	新生腹足目 カワニナ科	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	準絶滅危惧 (NT)	疏水(1980年:環境省, 2002), 宇治川 (1992年:環境省, 2002), 亀岡市 宇治川では過去20年ほど記録がないが、 大阪府下の淀川ではまだ生息している (大阪市立自然史博物館, 2010)。府内の 由良川水系では未記録だが、生息してい る可能性がある
16	○	マシジミ	<i>Corbicula leana</i>	ザルガイ目 シジミ科	絶滅危惧種	リスト外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	京都府全域 淀川・由良川水系ではタイワンシジミに置 き換わっている(石橋・古丸, 2003)
17	○	オオタニシ	<i>Cipangopaludina japonica</i>	新生腹足目 タニシ科	準絶滅危惧 種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	京都府全域 府南部では個体数が減少している
18	○	モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>	異鰓目 モノアラガイ科	準絶滅危惧 種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	京都府全域 府南部ではハブタエモノアラガイに置き換 わっている(高倉, 2008)
19	○	ヒメマルマメタニシ	<i>Gobbia kiusiuensis</i>	新生腹足目エゾマ メ タニシ科	要注目種	リスト外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	亀岡市 生息地が局限されており危険性は高い が、現状についての情報が乏しい。岐阜 県でも採集されており(守谷, 2005), 岐 阜県版RDBでは情報不足とされている。

引用文献

- 石橋亮・古丸明（2003）琵琶湖淀川水系，大和川水系におけるタイワンシジミの出現状況，*Venus*, 62: 65-70.
- 環境省（2002）生物多様性調査動物分布調査（陸産及び淡水産貝類）報告書，1342 pp. 生物多様性センター.
- 紀平肇・小林光（2004）希少貝類，特にナカセコカワニナの自然繁殖条件を指標とした河川整備に関する調査研究，51 pp. 水生生物保全研究会.
- 紀平肇・松田征也・内山りゅう（2003）日本産淡水貝類図鑑1. 琵琶湖・淀川産の淡水貝類，160 pp. ピーシーズ.
- 近藤高貴・綾部環境問題研究会（2004）上林川（由良川水系）のカワシシジミガイ，淡水貝類研究会第9回研究集会報告，ちりばたん，35: 20-21.
- 窪田彦左衛門・編（1962）福井市立郷土博物館所蔵貝類目録，242pp. 福井市立郷土博物館.
- 黒田徳米（1962）貝類，巨椋池干拓誌，巨椋土地改良区，pp. 266-275.
- 守谷茂樹（2005）岐阜県で確認したスジキビとヒメマルマメタニシ，かきつばた，31: 24-25.
- 荻野幸一（1964）疏水の貝，京都の自然，pp. 158-160，六月社.
- 大阪市立自然史博物館（2010）みんなでつくる淀川大図鑑，113 pp.
- 瀧巖（1928）貝類雑記（1），*Venus*, 1: 27-32.
- 高倉耕一（2008）大阪およびその周辺地域に優占する外来巻貝ハブタエモノアラガイ *Lymnaea columella* (Say) とその自家受精による繁殖能力，大阪市立環境科学研究所研究報告，70: 43-51.

△ アップリスト種	12 種
▽ ダウンリスト種	0 種
○ 新規掲載された種	7 種
● リスト外に移行された種	0 種
☆ 和名変更など	0 種
計	19 種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

種子植物

No.	ランク	和名	学名	科名		新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	近畿版 RDB	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	▽	ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i> Thunb.	キンポウゲ科	離弁花	絶滅寸前種	絶滅種	危惧A	絶滅危惧II類 (VU)	京都市・乙訓地域に現存
2	▽	ルイヨウショウマ	<i>Actaea asiatica</i> H. Hara	キンポウゲ科	離弁花	絶滅寸前種	絶滅種	ランク外	なし	南丹地域に現存
3	▽	モメンヅル	<i>Astragalus reflexistipulus</i> Miq	マメ科	離弁花	絶滅寸前種	絶滅種	危惧A	なし	再発見(京都市・乙訓地域) 鹿害は?
4	▽	レンリソウ	<i>Lathyrus quinquenervius</i> (Miq.) Litv	マメ科	離弁花	絶滅寸前種	絶滅種	絶滅	なし	管理によって存続
5	▽	チョウジソウ	<i>Amsonia elliptica</i> (Thunb.) Roem. et Schult.	キョウチクトウ科	合弁花	絶滅寸前種	絶滅種	危惧C	準絶滅危惧 (NT)	山城地域で再発見後、2012年 流失。現状は野生絶滅
6	▽	タニジャコウソウ	<i>Chelonopsis longipes</i> Makino	シソ科	合弁花	絶滅寸前種	絶滅種	危惧B	準絶滅危惧 (NT)	山城地域で再発見(2012年)
7	▽	シオガマガク	<i>Pedicularis resupinata</i> L. var. <i>oppositifolia</i> Miq	ゴマノハグサ科	合弁花	絶滅寸前種	絶滅種	ランク外	なし	南丹地域他で再発見
8	▽	ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i> Oliver	ゴマ科	合弁花	絶滅寸前種	絶滅種	危惧A	絶滅危惧IB類 (EN)	南丹地域で再発見
9	▽	フサタヌキモ	<i>Utricularia dimorphantha</i> Makino	タヌキモ科	合弁花	絶滅寸前種	絶滅種	危惧A	絶滅危惧IB類 (EN)	京都市・乙訓地域で再発見。
10	▽	ウマスゲ	<i>Carex idzuroei</i> Franch. et Savat.	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅寸前種	絶滅種	危惧B	なし	京都市・乙訓地域に現存
11	▽	ツリシュラン	<i>Goodyera pendula</i> Maxim.	ラン科	単子葉	絶滅寸前種	絶滅種	危惧B	なし	南丹地域に現存
12	▽	ノビネチドリ	<i>Gymnadenia camtschatica</i> (Cham.) Miyabe et Kudo	ラン科	単子葉	絶滅寸前種	絶滅種	危惧C	なし	京都市・乙訓地域で再発見。
13	▽	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i> (Bl.) Schltr.	ラン科	単子葉	絶滅寸前種	絶滅種	危惧B	絶滅危惧IB類 (EN)	丹後地域に現存
14	▽	ノコギリソウ	<i>Achillea alpina</i> L. var. <i>longiligulata</i> H.Hara	キク科	合弁花	絶滅寸前種	絶滅種	危惧A	なし	
15	▽	ラセンソウ	<i>Triumfetta japonica</i> Makino	シナノキ科	離弁花	絶滅寸前種	絶滅種		なし	
16	△	アズマツメクサ	<i>Tillaea aquatica</i> L.	ベンケイソウ科	離弁花	絶滅寸前種	絶滅危惧種	危惧A	準絶滅危惧 (NT)	現状絶滅?
17	△	イタチササゲ	<i>Lathyrus davidii</i> Hance	マメ科	離弁花	絶滅寸前種	絶滅危惧種	危惧A	なし	府下の産地は南丹地域の1ヶ所だけ(絶滅の可能性あり)
18	△	タンゴグミ	<i>Elaeagnus arakiana</i> Koidz.	グミ科	離弁花	絶滅寸前種	絶滅危惧種	危惧B	絶滅危惧IA類 (CR)	環境省CR
19	△	トラノハナヒゲ	<i>Rhynchospora brownii</i> Roem. et Schult.	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅寸前種	絶滅危惧種	危惧B	なし	南丹地域。すでに絶滅?
20	△	ミズハナビ(ヒメガヤツリ)	<i>Cyperus tenuispica</i> Steud.	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅寸前種	絶滅危惧種	ランク外	なし	一部ツルナシコアゼガヤツリの誤認
21	△	イワウメヅル	<i>Celastrus flagellaris</i> Rupr.	ニシキギ科	離弁花	絶滅寸前種	準絶滅危惧種	危惧B	なし	府内では見たことがない
22	△	エイザンスミレ	<i>Viola eizanensis</i> Makino	スミレ科	離弁花	絶滅寸前種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	現状では京都市内(数株)のみ生育?(生育数が非常に少ない)
23	△	オオバキスミレ	<i>Viola brevistipulata</i> (Franch. et Savat.) Becker	スミレ科	離弁花	絶滅寸前種	準絶滅危惧種	危惧C	なし	京都府は分布の西限で自生地はごく限られている

24	△	キセウタ	<i>Leonurus macranthus</i> Mzxim.	シソ科	合弁花	絶滅寸前種	準絶滅危惧種	ランク外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	自生地が次々消えている(遷移?)
25	△	レンプクソウ	<i>Adoxa moschatellina</i> L.	レンプクソウ科	合弁花	絶滅寸前種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	ほとんど見かけることはない
26	△	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i> (Jacq.) A.DC.	キキョウ科	合弁花	絶滅寸前種	準絶滅危惧種	危惧C	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	分布は府内全域
27	△	ヒメヨモギ	<i>Artemisia lancea</i> Vaniot	キク科	合弁花	絶滅寸前種	準絶滅危惧種	危惧A	なし	吹き付けによる外来個体の侵入?
28	△	ヒナザサ	<i>Coelachne japonica</i> Hack.	イネ科	単子葉	絶滅寸前種	準絶滅危惧種	危惧B	準絶滅危惧 (NT)	京都市・乙訓地域。
29	△	モミジカラスウリ	<i>Trichosanthes multiloba</i> Miq.	ウリ科	離弁花	絶滅寸前種	要注目種	ランク外	なし	種子が寄生バエにやられ繁殖しにくいのでは?
30	○	ヒメタデ	<i>Persicaria erectominor</i> (Makino) Nakai	タデ科	離弁花	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	向島に記録はあるが
31	○	カザグルマ	<i>Clematis patens</i> C.Morren et Decne.	キンポウゲ科	離弁花	絶滅寸前種	リスト外	危惧C	準絶滅危惧 (NT)	京都市・乙訓地域のみ
32	○	キバナサバノオ	<i>Dichocarpum pterigionocaudatu m</i> (Koidz.) Tamura et Lauener	キンポウゲ科	離弁花	絶滅寸前種	リスト外	危惧C	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	京都市・乙訓地域と南丹地域に現存。環境省ⅠB類
33	○	マルバウマノズクサ	<i>Aristolochia contorta</i> Bunge	ウマノズクサ科	離弁花	絶滅寸前種	リスト外	危惧A	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	南丹地域。(山城地域では絶滅?)
34	○	イワテヤマナシ(ミチノナシ)	<i>Pyrus ussuriensis</i> Maxim.	バラ科	離弁花	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	中丹地域。自生したら環境省CR
35	○	ノハラクサフジ	<i>Vicia amurensis</i> Oett.	マメ科	離弁花	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	丹後地域。現場にはもうない?
36	○	ウドカズラ	<i>Ampelopsis cantoniensis</i> (Hook. Et Arn.) Planch.	ブドウ科	離弁花	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	山城地域で新発見
37	○	マルバスマシレ(ケマルバも含む)	<i>Viola keiskei</i> Miq.	スマシレ科	離弁花	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	現状生育が確認出来ない→長老山・三岳山には現在はない
38	○	ツルタチツボスマシレ	<i>Viola rhizomata</i> Nakai	スマシレ科	離弁花	絶滅寸前種	リスト外		なし	府内新産
39	○	ハマヒルガオ府南部 個体群	<i>Calystegia soldanella</i> (L.) R.Br.	ヒルガオ科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	府南部河川に一か所
40	○	コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i> (Lour.) K.Koch	クマツヅラ科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	危惧B	なし	自生はめったにない。南丹地域に一か所生存
41	○	キバナアキギリ	<i>Salvia nipponica</i> Miq.	シソ科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	近畿植物誌では下夜久野・三岳山に記録があるが現状は絶滅の可能性有
42	○	ヤマタツナミノウ	<i>Scutellaria pekinensis</i> Maxi. var. <i>transitra</i> (Makino) H.Hara	シソ科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	危惧A	なし	産地はわずかになった
43	○	オオマルバノホロン	<i>Solanum megacarpum</i> Koidz.	ナス科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	危惧C	なし	現存しているか不明
44	○	サツキヒナノウスツボ	<i>Scrophularia musashiensis</i> Bonati	ゴマノハグサ科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	危惧C	なし	丹後地域
45	○	トモエシオガマ	<i>Pedicularis resupinata</i> L. subsp. <i>teucrifolia</i> (M.Bieb. Ex Steven) T.Yamaz. var. <i>caespitosa</i> Koiz.	ゴマノハグサ科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	丹後地域

46	○	カワラハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. Et Hook.f. subsp. <i>Yedoensis</i> (Franch. Et Sa.) Kitam.	キク科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	危惧B	なし	近畿地方植物誌・京都府草木誌(すでに絶滅?)
47	○	キクバヒヨドリ	<i>Eupatorium makinoi</i> T.Kawahara et Yahara	キク科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	丹後地域?
48	○	タンゴボウキ	<i>Pertya</i> sp.	キク科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	外来?
49	○	ヌマダイコン	<i>Adenostemma lavenia</i> (L.) Kuntze	キク科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	府内ではひじょうに少ない
50	○	ハバヤマボクチ	<i>Synurus excelsus</i> (Makino) Kitam.	キク科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	危惧A	なし	山城地域と丹後地域に記録
51	○	ヒメシオン	<i>Aster fastigiatus</i> Fisch.	キク科	合弁花	絶滅寸前種	リスト外	危惧A	なし	丹後地域に記録
52	○	コゴメカゼクサ	<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.	イネ科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	危惧A	なし	山城地域に記録
53	○	ヤマトテンナンショウ	<i>Arisaema longilaminum</i> Nakai	サトイモ科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	新産。山城地域
54	○	クロハリイ	<i>Eleocharis kamschatica</i> (C.A.Mey.) Kom. forma <i>reducta</i> (Ohwi) Ohwi	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	危惧B	なし	丹後地域に記録
55	○	ツクシカンガレイ	<i>Schoenoplectus multisetus</i> Hayas. Et C.Sato	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	種記載者が府内産を確認
56	○	ハタベカンガレイ	<i>Schoenoplectus gemmifer</i> C.Sato, T.Maeda et Uchino	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	絶滅危惧II類(VU)	南丹地域に現存
57	○	キエビネ	<i>Calanthe striata</i> R.Br.	ラン科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	危惧A	絶滅危惧IB類(EN)	丹後地域で昭和30年代から目撃されている
58	○	クモイジガバチ	<i>Liparis truncata</i> F.Maek. ex T.Hashim.	ラン科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	絶滅危惧IA類(CR)	南丹地域に現存。環境省CR
59	○	クロムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> Honda	ラン科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	山城地域で一度確認されたのみ
60	○	ヒナチドリ	<i>Ponerorchis chidori</i> (Makino) Ohwi	ラン科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	危惧A	絶滅危惧II類(VU)	南丹地域
61	○	ベニシユスラン	<i>Goodyera biflora</i> (Lindl.) Hook.f.	ラン科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	危惧A	なし	中丹地域にて生育確認、花明山植物園に標本あり
62	○	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i> Lindl.	ラン科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	危惧B	絶滅危惧II類(VU)	丹後地域
63	○	ムカゴサイシン	<i>Nervilia nipponica</i> Makino	ラン科	単子葉	絶滅寸前種	リスト外	危惧A	絶滅危惧IB類(EN)	山城地域で発見されている
64	▽	アサザ	<i>Nymphoides peltata</i> (S.G.Gmel.) Kuntze	ミツガシワ科	合弁花	絶滅危惧種	絶滅種	危惧A	準絶滅危惧(NT)	山城地域ほか
65	▽	マキエハギ	<i>Lespedeza virgata</i> (Thunb.) DC	マメ科	離弁花	絶滅危惧種	絶滅寸前種	危惧C	なし	山城地域の一部にかなりの個体数がある
66	▽	クサレダマ	<i>Lysimachia vulgaris</i> L. subsp. <i>davurica</i> (Ledeb.) Tatew.	サクランソウ科	合弁花	絶滅危惧種	絶滅寸前種	危惧C	なし	丹後地域で増加中
67	▽	ヌマガヤ	<i>Moliniopsis japonica</i> (Hack.) Hayata	イネ科	単子葉	絶滅危惧種	絶滅寸前種	ランク外	なし	山城地域で群生地発見
68	▽	セキコク	<i>Dendrobium moniliforme</i> (L.) Sw.	ラン科	単子葉	絶滅危惧種	絶滅寸前種	危惧C	なし	多くの場所で生育が確認出来た

69	△	ヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi	スイレン科	離弁花	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	山間部に点在するが少ない
70	△	ウメバチソウ	<i>Parnassia palustris</i> L.	ユキノシタ科	離弁花	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	遷移で消失の傾向?
71	△	カキノハグサ	<i>Polygala reinii</i> Franch. et Savat.	ヒメハギ科	離弁花	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	準絶	なし	鹿の食害は?
72	△	メグスリノキ	<i>Acer maximowiczianum</i> Miq.	カエデ科	離弁花	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	危惧A	なし	
73	△	アカネスミレ	<i>Viola phalacrocarpa</i> Maxim.	スミレ科	離弁花	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	現状では中丹地域、丹後地域のみ、大江山は確認出来ず。
74	△	イソスミレ	<i>Viola grayi</i> Franch. et Savat.	スミレ科	離弁花	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	危惧A	絶滅危惧II類(VU)	丹後地域のみ生育
75	△	ヒメミソハギ	<i>Ammannia multiflora</i> Roxb.	ミソハギ科	離弁花	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	危惧C	なし	
76	△	フデリンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i> Fawcett	リンドウ科	合弁花	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	よく盗られる
77	△	クガイソウ	<i>Veronicastrum japonicum</i> (Nakai) T.Yamaz.	ゴマノハグサ科	合弁花	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	
78	△	フクオウソウ	<i>Prenanthes acerifolia</i> (Maxim.) Matsum.	キク科	合弁花	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	遷移によって激減
79	△	セキシヨウモ	<i>Vallisneria natans</i> (Lour.) H.Hara	トチカガミ科	単子葉	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	
80	△	キバナノアマナ	<i>Gagea lutea</i> (L.) Ker-Gawl	ユリ科	単子葉	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	危惧C	なし	生育地が限られている
81	△	アヤメ	<i>Iris sanguinea</i> Hornem.	アヤメ科	単子葉	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	遷移の進行
82	△	オニシバ	<i>Zoysia macrostachya</i> Franch. et Savat.	イネ科	単子葉	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	
83	△	スズメノコビエ	<i>Paspalum scrobiculatum</i> L. var. <i>orbiculare</i> (G.Forst.) Hack.	イネ科	単子葉	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	
84	△	ヒロハノオオタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> Franch. et Savat. var. <i>arakiana</i> (Ohwi) Ohwi	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	大江山がタイプ産地
85	△	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Bl.	ラン科	単子葉	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	絶滅危惧II類(VU)	遷移の進行
86	△	ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Bl.	ラン科	単子葉	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	遷移の進行
87	△	ジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i> Franch. et Savat.	ラン科	単子葉	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	危惧C	なし	減っている
88	△	ハマナデシコ	<i>Dianthus japonicus</i> Thunb.	ナデシコ科	離弁花	絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	やはり自生だろう。丹後地域
89	△	アラゲナツハゼ	<i>Vaccinium ciliatum</i> Thunb.	ツツジ科	合弁花	絶滅危惧種	要注目種	危惧C	なし	幼木をみない。天橋立のは切られた
90	△	トウテイラン	<i>Pseudolysimachion ornatum</i> (Monjus.) Yamazaki	ゴマノハグサ科	合弁花	絶滅危惧種	要注目種	危惧A	絶滅危惧II類(VU)	自生地では年々減少している
91	△	オオモミジガサ	<i>Miracalia makinoana</i> (Yatabe) Kitam.	キク科	合弁花	絶滅危惧種	要注目種	準絶	なし	
92	△	オケラ	<i>Atractylodes japonica</i> Koidz. ex Kitam.	キク科	合弁花	絶滅危惧種	要注目種	危惧C	なし	遷移の進行
93	○	キヌヤナギ	<i>Salix schwerinii</i> E.L.Wolf	ヤナギ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	稀産
94	○	ツルコウゾ近似品	<i>Broussonetia aff. kaempferi</i> Siebold	クワ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	山城地域。蔓状になるヒメコウゾの形態

95	○	ナガバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastatosagittatum</i> (Makino) Nakai	タデ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	準絶滅危惧 (NT)	産地は数えるほど 京都市内で群生
96	○	ネバリタデ	<i>Persicaria viscofera</i> (Makino) H.Gross	タデ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	原野に生え、ほとんど残っていない
97	○	オオネバリタデ	<i>Persicaria makinoi</i> (Nakai) Nakai	タデ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	原野に生え、ほとんど残っていない
98	○	タチハコベ	<i>Moehringia trinerva</i> (L.) Clairv.	ナデシコ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	準絶滅危惧 II 類 (VU)	近年は確認例がない
99	○	ヤマハコベ	<i>Stellaria uchiyamana</i> Makino	ナデシコ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	気がつきにくい 石灰岩地
100	○	オオバウマノズクサ	<i>Aristolochia kaempferi</i> Willd.	ウマノズクサ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	府内の自生は2カ所のみ？
101	○	ヤマシャクヤク	<i>Paeonia japonica</i> (Makino) Miyabe et Takeda	ボタン科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	準絶滅危惧 (NT)	少ない。ペニバナ白花品と混同？
102	○	コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i> (Lour.) Ohwi	アブラナ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	準絶滅危惧 (NT)	調査が不十分だが
103	○	ムラサキユミ	<i>Euonymus lanceolatus</i> Yatabe	ニシキギ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	最近見ない 小さいため鹿害？
104	○	カラスノゴマ	<i>Corchoropsis tomentosa</i> Sieb. et Zucc.	シナノキ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	ほとんど見られない
105	○	ナニワズ	<i>Daphne jezoensis</i> Maxim.	ジンチョウゲ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	丹後地域(新産)
106	○	コミヤマスマレ	<i>Viola maximowicziana</i> Makino	スマレ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	乙訓地域で新たに生育確認(50株未満)
107	○	ナガバノスマレサイシ	<i>Viola bissetii</i> Maxim.	スマレ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	分布上重要
108	○	ヒナスミレ	<i>Viola takedana</i> Makino	スマレ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	京都では数が非常に少ない。
109	○	ヤマゼリ	<i>Ostericum sieboldii</i> (Miq.) Nakai	セリ科	離弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	京都では数が非常に少ない。石灰岩系植物
110	○	シャクジョウソウ	<i>Monotropa hypopithys</i> L.	イチヤクソウ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	発見困難
111	○	エゾリンドウ	<i>Gentiana triflora</i> Pall. var. <i>japonica</i> (Kusn.) H.Hara	リンドウ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧A	なし	その後の状況は？
112	○	コバナカモメヅル(アズマ、シロバナを含む)	<i>Vincetoxicum sublancoelatum</i> (Miq.) Maxim. s.l.	ガガイモ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	シロバナは丹後地域のみ
113	○	オオキヌタソウ	<i>Rubia chinensis</i> Regel et Maack	アカネ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	準絶	なし	報告が少ないが
114	○	サワリソウ	<i>Ancistrocarya japonica</i> Maxim.	ムラサキ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	準絶	なし	オニルリソウはあるが
115	○	ホタルカズラ	<i>Lithospermum zollingeri</i> A.DC.	ムラサキ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	南丹地域や京都市内
116	○	エゾシロネ	<i>Lycopus uniflorus</i> Michx.	シソ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	南山城村にもある
117	○	マネキグサ	<i>Loxocalyx ambiguus</i> (Makino) Makino	シソ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	準絶	準絶滅危惧 (NT)	鹿害がひどい
118	○	ミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> Makino	シソ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	準絶	なし	鹿害がひどい
119	○	ヤマジノタツナミソウ	<i>Scutellaria amabilis</i> H.Hara	シソ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	丹後、中丹、山城？
120	○	マルバノホロシ	<i>Solanum maximowiczii</i> Koidz.	ナス科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	中丹地域

121	○	アブノメ	<i>Dopatrium junceum</i> (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth.	ゴマノハグサ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	丹後地域以外ではほとんど見られない
122	○	オオヒナノウスツボ	<i>Scrophularia kakudensis</i> Franch.	ゴマノハグサ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	遷移の進行ほか
123	○	クチナシグサ	<i>Monochasma shearerii</i> (S.Moore) Maxim.	ゴマノハグサ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	貧栄養地に少数が残るのみ
124	○	シソクサ	<i>Limnophila chinensis</i> (Osbeck) Merr. subsp. <i>aromatica</i> (Lam.) T.Yamaz.	ゴマノハグサ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	丹後地域に記録
125	○	ヒナノウスツボ	<i>Scrophularia duplicatoserrata</i> (Miq.) Makino	ゴマノハグサ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	オオヒナノウスツボより少ない?
126	○	イヌノフグリ	<i>Veronica polita</i> Fr. var. <i>lilacina</i> (T.Yamaz.) T.Yamaz.	ゴマノハグサ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	準絶	絶滅危惧II類 (VU)	京都市・乙訓地域
127	○	エゾゴマナ	<i>Aster glehnii</i> F.Schmidt	キク科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	丹後地域
128	○	オカオグルマ	<i>Tephrosieris integrifolia</i> (L.) Holub subsp. <i>kirilowii</i> (Turcz. ex DC.) B.Nord.	キク科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	丹後地域に記録
129	○	カンワバハグマ	<i>Pertya robusta</i> (Maxim.) Makino	キク科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	京都西山周辺の植物目録に記載あり
130	○	キクタニギク	<i>Chrysanthemum seticuspe</i> (Maxim.) Hand.-Mazz. f. <i>boreale</i> (Makino) H.Obashi et Yonek.	キク科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	準絶滅危惧 (NT)	数が少ない。遺伝子汚染も
131	○	ホソバナヤマハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. et Hook.f. var. <i>angustifolia</i> (Franch. et Sav.) Hayata	キク科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	近畿地方植物誌・京都府草木誌(大江山)
132	○	ヤマザトタンポポ	<i>Taraxacum arakii</i> Kitam.	キク科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	危惧B	準絶滅危惧 (NT)	南丹地域に記録
133	○	ヤマトウミヒルモ	<i>Halophila nipponica</i> John Kuo	トチカガミ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	新産? 丹後地域
134	○	ツツイトモ	<i>Potamogeton pusillus</i> L.	ヒルムシロ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	絶滅危惧II類 (VU)	丹後地域
135	○	コアマモ	<i>Zostera japonica</i> Asch. et Graebn.	アマモ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	危惧A	なし	丹後地域
136	○	トリゲモ	<i>Najas minor</i> All.	イバラモ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	絶滅危惧II類 (VU)	
137	○	ノカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> L. var. <i>disticha</i> (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta	ユリ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	現存数はわずか
138	○	キシダマムシグサ	<i>Arisaema kishidae</i> Makino ex Nakai	サトイモ科	合弁花	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	近畿植物誌・日本のテンナンショウ
139	○	グレーンスゲ	<i>Carex parviflora</i> Boott	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	危惧B	なし	
140	○	サギスゲ	<i>Eriophorum gracile</i> K.Koch	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	危惧A	なし	南丹地域では絶滅、山城地域に現存
141	○	サトヤマハリスゲ	<i>Carex ruralis</i> J.Oda et Nagam.	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	山城地域に現存
142	○	シズイ	<i>Schoenoplectus nipponicus</i> (Makino) Soják	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	危惧A	なし	南丹地域。すでに絶滅?

143	○	セイタカハリイ	<i>Eleocharis attenuata</i> (Franch. et Sav.) Palla	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	丹波、丹後、山城E?
144	○	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> (L.) Palla	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	丹後地域
145	○	フトイ	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i> (C.C.Gmel.) Palla	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	オオフトイとの異同が課題
146	○	ホザキマスキサ	<i>Carex planata</i> Franch. et Sav. var. <i>angustealata</i> Akiyama	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	環境省Ⅱ類、淀川水系
147	○	ミカツキグサ	<i>Rhynchospora alba</i> (L.) Vahl	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	南丹地域、山城地域に少数現存
148	○	ミノボロスゲ	<i>Carex albata</i>	カヤツリグサ科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	京都府新産。外来?
149	○	クロヤツシロラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i> Sawa	ラン科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	山城地域から報告
150	○	コケイラン	<i>Oreorchis patens</i> (Lindl.) Lindl.	ラン科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	最近減っている
151	○	トキソウ	<i>Pogonia japonica</i> Rchb.f.	ラン科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	危惧C	準絶滅危惧 (NT)	限られた場所しか生育していない(環境省VU)
152	○	ユウシュンラン	<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume var. <i>subaphylla</i> (Miyabe et Kudô) Ohwi	ラン科	単子葉	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	中丹地域。近畿唯一の産地?
153	△	イワボタン	<i>Chrysosplenium macrostemon</i> Maxim. ex Franch. et Savat	ユキノシタ科	離弁花	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	生育地が限られている
154	△	エチゴツルキジムシロ	<i>Potentilla toyamensis</i> Naruhasi et T. Sato	バラ科	離弁花	準絶滅危惧種	要注目種	危惧B	なし	南丹地域。ほかの産地が見つからない
155	△	ナンテンハギ	<i>Vicia unijuga</i> A.Braun	マメ科	離弁花	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	鹿害で減少
156	△	ヤマフジ	<i>Wisteria brachybotrys</i> Sieb. et Zucc.	マメ科	離弁花	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	分布の東限。中丹地域
157	△	レンゲツツジ	<i>Rhododendron molle</i> (Blume) G.Don subsp. <i>japonicum</i> (A.Gray) K.Kron	ツツジ科	合弁花	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	丹後地域では盗掘のため減少
158	△	サツマイナモリ	<i>Ophiorrhiza japonica</i> Blume	アカネ科	合弁花	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	丹後地域の生育地は環境の変化で減少した
159	△	スナビキソウ	<i>Heliotropium japonicum</i> A.Gray	ムラサキ科	合弁花	準絶滅危惧種	要注目種	危惧A	なし	丹後海岸。近畿でAランク
160	△	タジマタムラソウ	<i>Salvia omerocalyx</i> Hayata	シソ科	合弁花	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	丹後でもあまり見られない
161	△	オミナエシ	<i>Patrinia scabiosifolia</i> Fisch. ex Trevir.	オミナエシ科	合弁花	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	湿地の遷移で減少傾向
162	△	イソギク	<i>Chrysanthemum pacificum</i> Nakai	キク科	合弁花	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	丹後地域。自生と見られる
163	△	サワシロギク	<i>Aster rugulosus</i> Maxim.	キク科	合弁花	準絶滅危惧種	要注目種	危惧C	なし	湿地の減少・遷移
164	△	ヤマカシュウ	<i>Smilax sieboldii</i> Miq.	ヤマノイモ科	単子葉	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	南丹地域ほか
165	○	コバナチョウセンエノキ	<i>Celtis biondii</i> Pamp.	ニレ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	全体的に数が少ない
166	○	カナビキソウ	<i>Thesium chinense</i> Turcz.	ビャクダン科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	痩せ地に点在

167	○	サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i> (Regel) Nakai	タデ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	減っている
168	○	タンナトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> Thunb. subsp. <i>napiiforme</i> (H.Lév. et Vaniot) Kadota	キンポウゲ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	丹後地域。南丹地域にも？
169	○	イヌショウマ	<i>Cimicifuga biternata</i> (Siebold et Zucc.) Miq.	キンポウゲ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	あまり見かけることがない。
170	○	ウマノスズクサ	<i>Aristolochia debilis</i> Sieb. et Zucc.	ウマノスズクサ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	
171	○	キリンソウ	<i>Sedum aizoon</i> (L.) 't Hart var. <i>floribundus</i> (Nakai) H.Ohba	ベンケイソウ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	あまり見かけない、丹後地域、旧京北町
172	○	オオズミ	<i>Malus toringo</i> (Sieb.) Sieb. ex de Vriese var. <i>zumi</i> (Matsum.) H.Hara	バラ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	丹後地域に数本 -今年枝が切られていた
173	○	マルバヌスビトハギ	<i>Desmodium podocarpum</i> DC.	マメ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	産地が少ない
174	○	エゾタチカタバミ	<i>Oxalis stricta</i> L.	カタバミ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	あまり見かけない
175	○	クロウメモドキ	<i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>decipiens</i> Maxim.	クロウメモドキ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	非常に少ないが立地的には安定？
176	○	コガンピ	<i>Diplomorpha ganpi</i> (Siebold et Zucc.) Nakai	ジンチョウゲ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	痩せ地に少数残存
177	○	ヒゴスミレ	<i>Viola chaerophylloides</i> (Regel) W.Becker var. <i>sieboldiana</i> (Maxim.) Makino	スミレ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	丹後地域・中丹地域にのみ生育しているが数が少ない。
178	○	フモトスミレ	<i>Viola sieboldii</i> Maxim.	スミレ科	離弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	京都府内では数が少ない
179	○	ヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> Miq.	ツツジ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	岩場に小群落が点在するのみ
180	○	ギンレイカ(ミヤマタコノホウ)	<i>Lysimachiaacroadenia</i> Maxim.	サクラソウ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	産地は点在するが、数が少ない
181	○	リュウキュウマメガキ	<i>Diospyros japonica</i> Siebold et Zucc.	カキノキ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	石灰岩・緑色岩地帯に残存？
182	○	ヤマトアオダモ	<i>Fraxinus longicuspis</i> Sieb. et Zucc.	モクセイ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	石灰岩・緑色岩・蛇紋岩地帯
183	○	ケテイカカズラ	<i>Trachelospermum jasminoides</i> (Lindl.) Lem. var. <i>pubescens</i> Makino	キョウチクトウ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	準絶	なし	詳しい同定が必要
184	○	タチカモメヅル	<i>Vincetoxicum glabrum</i> (Nakai) Kitag.	ガガイモ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	府南部の湿地に少数生存
185	○	オオヤママムグラ	<i>Galium pogonanthum</i> Franch. et Sav. var. <i>trichopetalum</i> (Nakai) H.Hara	アカネ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	報告が少ない
186	○	イガタツナミソウ(イガタツナミ)	<i>Scutellaria kurokawae</i> H.Hara	シソ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	準絶	なし	南部地域のみ？
187	○	カワミドリ	<i>Agastache rugosa</i> (Fisch. et C.A.Mey.) Kuntze	シソ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	府内では稀。丹後地域にもある
188	○	シソバツツナミ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> Koidz.	シソ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	府下では南部地域でしか見られないのではないか

189	○	ジャコウソウ	<i>Chelonopsis moschata</i> Miq.	シソ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	あまり見かけない
190	○	ナツノタムラソウ	<i>Salvia lutescens</i> (Koidz.) Koidz. var. <i>intermedia</i> (Makino) Murata	シソ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	準絶	なし	産地が局在
191	○	ハッカ	<i>Mentha canadensis</i> L. var. <i>piperascens</i> (Malinv. ex Holmes) H.Hara	シソ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	外来種と置き換わって見なくなった
192	○	フトボナギナタコウジュ	<i>Eisholtzia nipponica</i> Ohwi	シソ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	京都府草木誌・京都西山周辺の植物目録・近畿地方植物誌
193	○	ホクリクタツナミソウ	<i>Scutellaria indica</i> L. var. <i>satokoae</i> Wakasugi et Naruh.	シソ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	府下新産植物(北部・中部・南部で生育確認)
194	○	フジウツギ	<i>Buddleja japonica</i> Hemsl.	フジウツギ	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	沢沿いにとときき見るが少ない
195	○	ウンラン	<i>Linaria japonica</i> Miq.	ゴマノハグサ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	危惧A	なし	丹後海岸
196	○	カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i> Wall.	ゴマノハグサ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	準絶	準絶滅危惧 (NT)	オオカワヂシャ(外来)と雑種化
197	○	ヒヨクソウ	<i>Veronica laxa</i> Benth.	ゴマノハグサ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	あまり見かけない
198	○	オギノツメ	<i>Hygrophila salicifolia</i> (Vahl) Nees	キツネノマゴ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	全体的に少ない
199	○	ハマウツボ	<i>Orobanche coerulescens</i> Stephan ex Willd.	ハマウツボ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	危惧A	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
200	○	ミミカキグサ	<i>Utricularia bifida</i> L.	タヌキモ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	湿地の遷移により減少傾向
201	○	コウグイスカグラ	<i>Lonicera ramosissima</i> Franch. et Sav. ex Maxim.	スイカズラ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	準絶	なし	中丹地域から報告はあるが、現状不明
202	○	ソバナ	<i>Adenophora remotiflora</i> (Siebold et Zucc.) Miq.	キキョウ科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	丹後地域以外では見ない
203	○	クルマバハグマ	<i>Pertya rigidula</i> (Miq.) Makino	キク科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	近畿地方植物誌、京都府の山野草
204	○	ワカサハマギク	<i>Dendranthema japonicum</i> (Makino) Kitam. var. <i>wakasaense</i> (Shimot. ex Kitam.) Kitam.	キク科	合弁花	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	準絶滅危惧 (NT)	丹後地域にのみ分布(環境省 VU)
205	○	ウリカワ	<i>Sagittaria pygmaea</i> Miq.	オモダカ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	あまり見かけなくなった
206	○	ヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> A.Braun et C.D.Bouché	オモダカ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	貧栄養の山間部に残存
207	○	オヒガンギボウシ	<i>Hosta longipes</i> (Franch. et Sav.) Matsum. var. <i>aequinocctiantha</i> (Koidz. ex Araki) Kitam.	ユリ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	産地は限られている(府南部・中部の岩場)
208	○	シライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> Maxim.	ユリ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	盗採されることが多い
209	○	ツクバネソウ	<i>Paris tetraphylla</i> A.Gray	ユリ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	あまり見かけない
210	○	ユウスゲ	<i>Hemerocallis citrina</i> Baroni var. <i>vespertina</i> (H.Hara) M.Hotta	ユリ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	現状では丹後地域にのみ分布?
211	○	ユキザサ	<i>Smilacina japonica</i> A.Gray	ユリ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	ほとんどみかけない

212	○	ウシクサ	<i>Schizachyrium brevifolium</i> (Sw.) Nees ex Büse	イネ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	ほとんど見かけない(追加2012 July)
213	○	ヒメコヌカゲサ	<i>Agrostis nipponensis</i> Honda	イネ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	危惧C	準絶滅危惧(NT)	山城地域
214	○	ミノボロ	<i>Koeleria macrantha</i> (Ledeb.) Schult. et Schult.f.	イネ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	南丹地域、山城地域のみ?
215	○	ウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> Blume subsp. <i>urashima</i> (H.Hara) H.Obashi et J.Murata	サトイモ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	盗採されることが多い
216	○	カンサイイワスゲ(ミヤマイワスゲ)	<i>Carex odontostoma</i> Kük.	カヤツリグサ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	
217	○	シロガヤツリ	<i>Cyperus pacificus</i> (Ohwi) Ohwi	カヤツリグサ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	危惧A	なし	南丹地域、山城地域
218	○	ナガミノショウジョウソウ	<i>Carex blepharicarpa</i> Franch. var. <i>stenocarpa</i> Ohwi	カヤツリグサ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	危惧C	なし	
219	○	ピロードテンツキ	<i>Fimbristylis sericea</i> (Poir.) R.Br.	カヤツリグサ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	危惧A	なし	丹後地域。山城地域では絶滅
220	○	ヒンジガヤツリ	<i>Lipocarpa microcephala</i> (R.Br.) Kunth	カヤツリグサ科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	近年ほとんど見ない。除草剤?
221	○	ハナミョウガ	<i>Alpinia japonica</i> (Thunb.) Miq.	ショウガ	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	丹後地域で発見 他地域から報告はない
222	○	カキラン	<i>Epipactis thunbergii</i> A.Gray	ラン科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	限られた場所しか生育していない
223	○	ツチアケビ	<i>Cyrtosia septentrionalis</i> (Rchb.f.) Garay	ラン科	単子葉	準絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	産地は点在するが、個体数はわずか
224	▽	チシマネコノメソウ	<i>Chrysosplenium kamtschaticum</i> Fisch. ex Ser.	ユキノシタ科	離弁花	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	準絶	なし	丹後・中丹にわりあい多い
225	▽	クリンソウ	<i>Primula japonica</i> A.Gray	サクラソウ科	合弁花	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	危惧C	なし	鹿が食べないので、かえて増えている
226	○	ホソバイラクサ	<i>Urtica angustifolia</i> Fisch. ex Hornem.	イラクサ科	離弁花	要注目種	リスト外	危惧C	なし	山城(セイヨウイラクサとの異同に課題)
227	○	エゾカワラナデシコ	<i>Dianthus superbus</i> L.	ナデシコ科	離弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	北部地域。栽植からの逸出の可能性が問題?
228	○	ヒメクロモジ	<i>Lindera lancea</i> (Momiya) H.Koyama	クスノキ科	離弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	意外に少ない。山城地域
229	○	イブキトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> Thunb. subsp. <i>ibukiense</i> (Nakai) Kadota	キンポウゲ科	離弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	丹後数株あり、山城地域にも最近判明(キタヤマブシとは区別)
230	○	サラシナショウマ	<i>Cimicifuga simplex</i> (DC.) Wormsk. ex Turcz.	キンポウゲ科	離弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	近畿植物誌、京都府の山野草・京都府草木誌
231	○	イカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum</i> C.Morren var. <i>thunbergianum</i> (Miq.) Nakai	メギ科	離弁花	要注目種	リスト外	準絶	なし	分類に課題がある
232	○	シラヒゲソウ	<i>Parnassia foliosa</i> Hook.f. et Thomson	ユキノシタ科	離弁花	要注目種	リスト外	危惧C	なし	データ不足で、このランクに
233	○	モミジチャルメルソウ	<i>Mitella acerina</i> Makino	ユキノシタ科	離弁花	要注目種	リスト外	ランク外	準絶滅危惧(NT)	数は多いが生育地域は限られている
234	○	ヨサノハゴロモナナカマド(リクチュウナナカマド)	<i>Sorbus x rikuchiuensis</i> Makino	バラ科	離弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	交雑種(ウラジロノキ×ナナカマド)だがリストに入れる

235	○	オオイタヤマメグヅ	<i>Acer shirasawanum</i> Koidz.	カエデ科	離弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	丹後地域で採集 調査が必要
236	○	キカラスウリ	<i>Trichosanthes kirilowii</i> Maxim. var. <i>japonica</i> (Miq.) Kitam.	ウリ科	離弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	あまり見かけない
237	○	ハクウンボク	<i>Styrax obassia</i> Sieb. et Zucc.	エゴノキ科	合弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	大木は少ない
238	○	テンニンソウ	<i>Leucoscepttrum japonicum</i> (Miq.) Kitam. et Murata	シソ科	合弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	京都府草木誌・京都府の山野草
239	○	エゾノキツネアザミ	<i>Cirsium setosum</i> (Willd.) M.Bieb.	キク科	合弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	中丹地域の法面に繁茂。外国から?
240	○	オカダイコン	<i>Adenostemma madurense</i> DC.	キク科	合弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	新分類群
241	○	オクモジハグマ	<i>Ainsliaea acerifolia</i> Sch.Bip. var. <i>subapoda</i> Nakai	キク科	合弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	近畿地方植物誌、京都府の山野草
242	○	ネコノシタ	<i>Melanthera prostrata</i> (Hemsl.) W.L.Wagner et H.Rob.	キク科	合弁花	要注目種	リスト外	危惧A	なし	丹後に多いといわれるが、減少傾向
243	○	クロモ	<i>Hydrilla verticillata</i> (L.f.) Royle	トチカガミ科	単子葉	要注目種	リスト外	ランク外	なし	現状では意外に少ない
244	○	オヒルムシロ	<i>Potamogeton natans</i> L.	ヒルムシロ科	単子葉	要注目種	リスト外	危惧C	なし	山城地域のみ?
245	○	リュウノヒゲモ	<i>Potamogeton pectinatus</i> L.	ヒルムシロ科	単子葉	要注目種	リスト外	危惧A	準絶滅危惧 (NT)	丹後地域からの文献記録のみ
246	○	アサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> L. var. <i>foliosum</i> Regel	ユリ科	単子葉	要注目種	リスト外	ランク外	なし	種と分布域の再確認が必要と思うが?
247	○	シロウマアサツキ	<i>Allium schoenoprasum</i> L. var. <i>orientale</i> Regel	ユリ科	単子葉	要注目種	リスト外	ランク外	なし	丹後地域。アサツキと誤認されていないか?
248	○	タマガワホトギス	<i>Tricyrtis latifolia</i> Maxim.	ユリ科	単子葉	要注目種	リスト外	危惧C	なし	丹後地域から報告あり。未確認
249	○	オオキツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> Maxim. var. <i>kiushiana</i> (Makino) Makino ex Akasawa	ヒガンバナ科	単子葉	要注目種	リスト外	ランク外	なし	
250	○	オオシロガヤツリ	<i>Cyperus nipponicus</i> Franch. et Sav. var. <i>spiralis</i> Ohwi	カヤツリグサ科	単子葉	要注目種	リスト外	危惧C	なし	産地が少ない
251	○	クロアブラガヤ	<i>Scirpus sylvaticus</i> L. var. <i>maximowiczii</i> Regel	カヤツリグサ科	単子葉	要注目種	リスト外	ランク外	なし	法面に繁茂 外国から?
252	○	サンカクイ	<i>Schoenoplectus triquetrum</i> (L.) Palla	カヤツリグサ科	単子葉	要注目種	リスト外	ランク外	なし	近年減少傾向。丹後地域では、やや多い
253	○	ツルナシオアゼガヤツ	<i>Cyperus haspan</i> L. var. <i>microhaspan</i> Makino	カヤツリグサ科	単子葉	要注目種	リスト外	ランク外	なし	ミズハナビと混同されていた
254	○	ヒトモトススキ	<i>Cladium jamaicense</i> Crantz subsp. <i>chinense</i> (Nees) T.Koyama	カヤツリグサ科	単子葉	要注目種	リスト外	ランク外	なし	個体数は少ない
255	○	ビロードスゲ	<i>Carex miyabei</i> Franch.	カヤツリグサ科	単子葉	要注目種	リスト外	危惧C	なし	府南部。個体数は少ない
256	○	マツバスゲ	<i>Carex biwensis</i> Franch.	カヤツリグサ科	単子葉	要注目種	リスト外	ランク外	なし	意外に少なくなっている
257	○	ヤマジスゲ	<i>Carex bostrychostigma</i> Maxim.	カヤツリグサ科	単子葉	要注目種	リスト外	準絶	なし	府南部。調査不十分
258	○	アキザキヤツシロラン	<i>Gastrodia verrucosa</i> Blume	ラン科	単子葉	要注目種	リスト外	ランク外	なし	府南部の竹林などに点在

259	○	スズムシソウ	<i>Liparis makinoana</i> Schltr.	ラン科	単子葉	要注目種	リスト外	危惧A	なし	データ不足で、暫定的にこのランクに
260	○	サトヤマタデ	<i>Persicaria</i> sp.	タデ科	離弁花	要注目種	リスト外	ランク外	なし	中丹地域など
261	▽	ミズユキノシタ	<i>Ludwigia ovalis</i> Miq.	アカバナ科	離弁花	要注目種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	貧栄養の溜池に点々とある
262	▽	メガルカヤ	<i>Themeda triandra</i> Forsk. var. <i>japonica</i> (Willd.) Makino	イネ科	単子葉	要注目種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	府南部河川の堤防では多産
263	▽	エビネ	<i>Calanthe discolor</i> Lindl.	ラン科	単子葉	要注目種	準絶滅危惧種	ランク外	準絶滅危惧 (NT)	増加傾向にある
264	▽	コ克蘭	<i>Liparis nervosa</i> (Thunb.) Lindl.	ラン科	単子葉	要注目種	準絶滅危惧種	ランク外	なし	山城地域にはやや多い
265	●	ムベ	<i>Stauntonia hexaphylla</i> (Thunb.) Decne.	アケビ科	離弁花	リスト外	準絶滅危惧種	ランク外	なし	小苗まで含めると数は多い
266	●	ノジスミレ	<i>Viola yedoensis</i> Makino	スミレ科	離弁花	リスト外	準絶滅危惧種	ランク外	なし	府下全域に生育しているのと繁殖力は旺盛
267	●	イチヤクソウ	<i>Pyrola japonica</i> Klenze ex Alefeld	イチヤクソウ科	合弁花	リスト外	準絶滅危惧種	ランク外	なし	府南部では数は多い
268	●	ハイチゴザサ	<i>Isachne nipponensis</i> Ohwi	イネ科	単子葉	リスト外	準絶滅危惧種	ランク外	なし	群生地が多い
269	●	ミチノクネコノメ	<i>Chrysosplenium kamtschaticum</i> Fisch. ex Ser. var. <i>aomorense</i> (Franch.) H.Hara	ユキノシタ科	離弁花	リスト外	絶滅危惧種	危惧C	なし	削除 現在の見解はチシマネコノメソウと同一視
270	●	タマミクリ	<i>Sparganium glomeratum</i> (Beurl. ex Laest.) L.M. Newman	ミクリ科	単子葉	リスト外	絶滅種	絶滅	準絶滅危惧 (NT)	誤認
271	☆	サイコクヒメコウホネ	<i>Nuphar saikokuensis</i> Shiga et Kadono	スイレン科	離弁花	絶滅危惧種	絶滅危惧種	危惧C	なし	ヒメコウホネから和名変更
272	☆	シベリアメドハギ?	<i>Lespedeza juncea</i> (L. fil.) Pers. ?	マメ科	離弁花	要注目種	要注目種	ランク外	なし	シベリアメドハギの誤同定? ランクそのまま
273	☆	ミノコバイモ?	<i>Fritillaria japonica</i> Miq. ?	ユリ科	単子葉	絶滅種	絶滅種	危惧A	準絶滅危惧 (NT)	ミノコバイモの誤認?。ランクそのまま

△ アップリスト種	50 種
▽ ダウンリスト種	26 種
○ 新規掲載された種	188 種
● リスト外に移行された種	6 種
☆ 和名変更など	3 種
計	273 種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

シダ植物

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	近畿版 RDB	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	△	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i> Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai	アカウキクサ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	準絶	絶滅危惧IB類 (EN)	外来種(雑種アゾラ)との競合で著しく減少
2	△	サクライカグマ	<i>Dryopteris gymnophylla</i> (Baker) C.Chr.	オシダ科	絶滅寸前種	要注目種	危惧C	なし	一度発見されてから40年以上発見されていない
3	△	ムクゲシケシダ	<i>Deparia kiusiana</i> (Koidz.) M.Kato	イワデンダ科	絶滅寸前種	要注目種	準絶	なし	前は近似品であったが、丹後で典型種が見つかった。シカの食害がひどい。
4	○	ミズニラモドキ	<i>Isoetes pseudojaponica</i> M.Takamiya, Mitsu.Watan. et K.Ono	ミズニラ科	絶滅寸前種	リスト外	危惧C	絶滅危惧II類 (VU)	ミズニラから独立。原著論文以外の産地未発見。京都市・乙訓地域
5	○	トネハナヤスリ	<i>Ophioglossum namegatae</i> M.Nishida et Kurita	ハナヤスリ科	絶滅寸前種	リスト外	危惧A	絶滅危惧II類 (VU)	新産(京都市・乙訓地域)
6	○	エゾフユノハナワラビ	<i>Botrychium multifidum</i> (S.G.Gmel.) Rupr. var. <i>robustum</i> (Rupr. ex Milde) C.Chr.	ハナワラビ科	絶滅寸前種	リスト外	危惧B	なし	南丹地域
7	○	ヌカイタチシダマガイ	<i>Dryopteris simasakii</i> (H.Itô) Sa.Kurata	オシダ科	絶滅寸前種	リスト外	危惧C	なし	中丹地域
8	○	ミドリワラビ	<i>Deparia viridifrons</i> (Makino) M.Kato	イワデンダ科	絶滅寸前種	リスト外	準絶	なし	南丹地域。津軽氏発見 現状は大水で消失?
9	▽	アツギノヌカイタチシダマガイ	<i>Dryopteris simasakii</i> (H.Itô) Sa.Kurata var. <i>paleacea</i> (H.Itô) Sa.Kurata	オシダ科	絶滅危惧種	絶滅寸前種	準絶	なし	産地が一か所から5か所に増えた
10	△	マンネンスギ	<i>Lycopodium dendroideum</i> Michx.	ヒカゲノカズラ科	絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	遷移でほとんど見られなくなった
11	○	ヒメクラマゴケ	<i>Selaginella heterostachys</i> Baker	イワヒバ科	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	三室戸でも消えた。他にもほとんどない。
12	○	ナチシダ	<i>Pteris wallichiana</i> J.Agardh	イノモトソウ科	絶滅危惧種	リスト外	ランク外	なし	中丹地域、京都市・乙訓地域
13	△	マツザカシダ	<i>Pteris nipponica</i> W.C.Shieh	イノモトソウ科	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	丹後地域、京都市・乙訓地域、山城地域
14	△	イヌチャセンシダ	<i>Asplenium tripteropus</i> Nakai	チャセンシダ科	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	湿度の低下で減っている
15	△	ミヤコカナワラビ	<i>Arachniodes kiotensis</i> Mitsuta	オシダ科	準絶滅危惧種	要注目種	ランク外	なし	大群落が鹿にたべられ消失
16	○	モトマチハナワラビ	<i>Sceptridium</i> sp.	ハナワラビ科	絶滅寸前種	リスト外	ランク外	なし	未記載種。中丹地域、京都市・乙訓地域
17	○	タチクラマゴケ	<i>Selaginella nipponica</i> Franch. et Sav.	イワヒバ科	要注目種	リスト外	ランク外	なし	確実に減っている
18	○	クジャクフモトシダ	<i>Microlepia x bipinnata</i> (Makino) Shimura	コバノイシカグマ科	要注目種	リスト外	ランク外	なし	植栽か(京都市・乙訓地域)。雑種説も
19	○	イシカグマ	<i>Microlepia strigosa</i> (Thunb.) C.Presl	コバノイシカグマ科	要注目種	リスト外	ランク外	なし	植栽か(京都市・乙訓地域)

△	アップリスト種	7種
▽	ダウンリスト種	1種
○	新規掲載された種	11種
●	リスト外に移行された種	0種
☆	和名変更など	0種
	計	19種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

コケ植物

No.	ランク	和名	学名	科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	△	シモフリゴケ	<i>Racomitrium lanuginosum</i> (Hedw.) Brid.	藓類 ギボウシゴケ科	絶滅種	絶滅寸前種	なし	府内唯一の産地で生育を確認できず
2	△	ゴレツミズゴケ	<i>Sphagnum quiquefarium</i> (Lindb. ex	藓類 ミズゴケ科	絶滅種	絶滅寸前種	なし	府内唯一の産地の開発により生育を確認できず
3	△	キブネゴケ	<i>Rhachithecium nipponicum</i> (Toyama). Wijk et	藓類 タチヒダゴケ科	絶滅種	絶滅寸前種	絶滅危惧I類 (CR+EN)	府内唯一の産地で生育を確認できず
4	△	リスゴケ	<i>Dozya japonica</i> Sande Lac.	藓類 イタチゴケ科	絶滅種	絶滅寸前種	なし	府内唯一の産地で生育を確認できず
5	△	ケサガリゴケ	<i>Neobarbella pilifera</i> (Broth. & Yasuda) Nog.	藓類 トラノオゴケ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	なし	生育地の環境悪化 再確認できず
6	○	バンダイゴケ	<i>Rauyiella fujisana</i> (Par.) Reim.	藓類 シノブゴケ科	絶滅寸前種	リスト外	なし	前回データの見落とし 生育は再確認できず
7	△	ヤリノホゴケ	<i>Calliergonella cuspidata</i> (Hedw.) Loeske.	藓類 ヤナギゴケ科	絶滅寸前種	絶滅危惧種	なし	既産地での生育を再確認できず
8	▽	コウライイチイゴケ	<i>Taxiphyllum alternans</i> (Card.) Z.Iwats.	藓類 ハイゴケ科	絶滅危惧種	絶滅寸前種	なし	産地の増加
9	▽	コタチヒダゴケ	<i>Orthotrichum exiguum</i> Sull.	藓類 タチヒダゴケ科	絶滅危惧種	絶滅寸前種	なし	産地の増加
10	▽	ウキゴケ	<i>Riccia fluitans</i> L.	苔類 ウキゴケ科	準絶滅危惧種	絶滅寸前種	なし	産地の増加
12	▽	ヤワラゼニゴケ	<i>Monosolenium tenerum</i> Griff.	苔類 ヤワラゼニゴケ科	要注目種	絶滅寸前種	絶滅危惧II類 (VU)	産地の増加
13	▽	イチョウウキゴケ	<i>Ricciolepis natans</i> (L.) Corda	苔類 ウキゴケ科	要注目種	絶滅危惧種	準絶滅危惧 (NT)	産地の増加
14	○	イトウロコゴケ	<i>Nardia minutifolia</i> Furuki	苔類 ツボミゴケ科	要注目種	リスト外	なし	京都府新産種
15	○	ホウライサワゴケ	<i>Philonotis hastata</i> (Duby) Wijk et Marg.	藓類 タマゴケ科	要注目種	リスト外	なし	京都府新産種
16	○	ウロコゼニゴケ	<i>Fossombronia foveolata</i> Lindb. var. <i>crustula</i>	苔類 ウロコゼニゴケ科	要注目種	リスト外	なし	京都府新産種
17	○	オタルミスゴケ	<i>Pohlia otaruensis</i> (Cardot) Iisiba	藓類 ハリガネゴケ科	要注目種	リスト外	なし	京都府新産
18	○	オオミズゴケ	<i>Sphagnum palustre</i> L.	藓類 ミズゴケ科	要注目種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	オオミズゴケは普通種だが、湿原を指標する種であり、また府内に産するミズゴケ属はすべての種を指定する
19	●	ツブテゴケ			リスト外	絶滅寸前種	なし	分類学的研究から独立種ではなくなったためリストから削除
20	●	ヒメヤノネゴケ			リスト外	絶滅寸前種	なし	分類学的研究から独立種ではなくなったためリストから削除
21	●	エゾヤノネゴケ			リスト外	絶滅寸前種	なし	分類学的研究から独立種ではなくなったためリストから削除
22	●	マルバカヤゴケ			リスト外	絶滅寸前種	なし	分類学的研究から独立種ではなくなったためリストから削除
23	●	コマチゴケ	<i>Haplomitrium mnioides</i> (Lindb.) Schust.	苔綱 コマチゴケ科	リスト外	要注目種	なし	産地の増加
24	●	ホンモンジゴケ	<i>Scopelophila cataractae</i> (Mitt.) Broth.	苔綱 センボンゴケ科	リスト外	要注目種	なし	産地の増加

△ アップリスト種	6種
▽ ダウンリスト種	5種
○ 新規掲載された種	6種
● リスト外に移行された種	6種
☆ 和名変更など	0種
計	23種

京都府レッドリスト 新旧カテゴリー対照表

菌類

No.	ランク	和名	学名	目科名	新カテゴリー (2013)	旧カテゴリー (2002)	環境省 カテゴリー (2012)	変更理由など
1	▽	コウボウフデ	<i>Pseudotulostoma japonicum</i> (Otani) I. Asai, H. Sato & Nara	ケシボウズタケ目 コウボウフデ科	絶滅寸前種	絶滅種	情報不足 (DD)	2007年宝ヶ池などで再発見された
2	▽	アカイカタケ	<i>Aseroe rubra</i> La Billardiere	スッポンタケ目 アカカゴタケ科	絶滅寸前種	絶滅種	なし	2003年長老ヶ岳などで再発見された
3	○	ナガエノホコリタケ	<i>Tulostoma fimbriatum</i> var. <i>campestre</i> (Morgan) G. Moreno	ケシボウズタケ目 ケシボウズタケ科	絶滅寸前種	リスト外	情報不足 (DD)	海浜植物群落の減少にともなって
4	○	ブンゴツボマツタケ	<i>Squamanita</i> sp.	ハラタケ目 ツボマツタケ科	絶滅寸前種	リスト外	なし	2009年京都市内に国内二例目の産地として発見
5	○	ヤチヒロヒダタケ	<i>Armillaria ectypa</i> (Fr.) Lamoure	ハラタケ目 タマバリタケ科	絶滅寸前種	リスト外	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	八丁平湿原での菌類調査に伴い、幼菌が採取されヤチヒロヒダタケと同定された。湿地依存性の北方性のきのこ
6	○	ミドリトサカタケ	<i>Cordyceps indigotica</i> Kobayasi & Shimizu.	ニクザキン目 バツカクキン科	絶滅寸前種	リスト外	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	京都府での分布は知られていたが、全国的な希少性が明らかになり指定
7	○	バカマツタケ	<i>Tricholoma bakamatsutake</i> Hongo	ハラタケ目 キシメジ科	絶滅危惧種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	京北町などでの文献記録はあるが、発生環境の減少が懸念される
8	○	マユハキタケ	<i>Trichocoma paradoxa</i> Jungh.	アカキクラゲ目 マユハキタケ	絶滅危惧種	リスト外	なし	大径のタブの枯木に発生。発生環境が限定されるため指定。
9	○	タンボヤンマタケ	<i>Cordyceps odonatae</i> Kobayasi	ニクザキン目 バツカクキン科	絶滅危惧種	リスト外	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	京都府での分布は知られていたが、全国的な希少性が明らかになり指定
10	○	スッポンヤドリタケ	<i>Podostroma solmsii</i> (E. Fisch.) S. Imai. f. <i>octospora</i> Yoshim. Doi	ニクザキン目 ニクザキン科	絶滅危惧種	リスト外	なし	全国で3箇所のみ発生が知られる。菌寄生菌という生態の複雑さも踏まえ指定。
11	△	オオミノミズサタケ	<i>Wynnea americana</i> Thaxter	チャワンタケ目 ベニチャワンタケ科	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	なし	前回調査からの発生情報がなく、ランクを上げた
12	○	キシメジ	<i>Tricholoma aequestre</i> (L: Fr.) P. Kumm.	ハラタケ目 キシメジ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	生息域となる貧栄養なマツ林の衰退に伴い指定
13	○	シモコシ	<i>Tricholoma auratum</i> (Fr.) Gillet	ハラタケ目 キシメジ科	準絶滅危惧種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	生息域となる海岸マツ林などの衰退と富栄養化
14	○	チャオニテングタケ	<i>Amanita sculpta</i> Corner & Bas	ハラタケ目 テングタケ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	良好な照葉樹林環境で発生。
15	○	ニンギョウタケモドキ	<i>Albatrellus ovinus</i> (Schaeff.) Kottl. & Pouzar	ベニタケ目 ニンギョウタケモドキ科	準絶滅危惧種	リスト外	準絶滅危惧 (NT)	生息域となる貧栄養なマツ林の衰退に伴い指定
16	○	ヒメウグイスイグチ	<i>Pulveroboletus viridis</i> Heinem. & Gooss.	イグチ目 イグチ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	良好な照葉樹林環境で発生。
17	○	ミズサタケ	<i>Wynnea gigantea</i> Berk. et Curt.	チャワンタケ目 ベニチャワンタケ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	貧栄養な林床で発生。生息地の減少による。
18	○	ルリハツタケ	<i>Lactarius indigo</i> (Schw.) Fr.	ベニタケ目 ベニタケ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	良好な照葉樹林環境で発生。
19	○	フジウスタケ	<i>Gomphus fujisanensis</i> (Imai) Parmasto	ラッパタケ目 ラッパタケ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	モミ林を中心に発生。府下においてはまとまったモミ林は希少である
20	○	コトヒラシロテングタケ	<i>Amanita kotohiraensis</i> Nagasawa & Mitani.	ハラタケ目 テングタケ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	良好な照葉樹林環境で発生。
21	○	クロカワ	<i>Boletopsis grisea</i> (Peck) Bondartsev & Singer	イボタケ目 マツバハリタケ科	準絶滅危惧種	リスト外	情報不足 (DD)	生息域となる貧栄養なマツ林の衰退に伴い指定
22	○	コウタケ	<i>Sarcodon aspratus</i> (Berk.) S. Ito	イボタケ目 マツバハリタケ科	準絶滅危惧種	リスト外	なし	生息域となる貧栄養なマツ林の衰退に伴い指定
23	○	テンガイカブリタケ	<i>Verpa digitaliformis</i> Pers.: Fr.	チャワンタケ目 アミガサタケ科	要注目種	リスト外	なし	全国的な稀産種
24	○	エツキクロコップタケ	<i>Urnula craterium</i> (Schwein.) Fr.	チャワンタケ目 クロチャワンタケ科	要注目種	リスト外	なし	湿ったブナ林林床に発生、近年のブナ林の林床植生破壊に伴い要注目。
25	▽	キンチャクタケ	<i>Nidularia farcta</i> (Roth.: Pers.) Fr	チャダイゴケ目 チャダイゴケ科	要注目種	絶滅寸前種	なし	既発見地では安定して見られている。調査が不十分であり実態がよくわからない
26	▽	シバフダンゴタケ	<i>Bovista plumbea</i> Pers. ex Pers.	ホコリタケ目 ホコリタケ科	要注目種	絶滅寸前種	なし	分類的な取り扱いの再検討が必要であり、実態がよくわからない
27	▽	チャセイヨウショウロ	<i>Tuber</i> sp.	チャワンタケ目 セイヨウショウロ科	要注目種	絶滅寸前種	なし	分類的な取り扱いの再検討が必要であり、実態がよくわからない
28	▽	ウスチャセイヨウショウロ	<i>Tuber</i> sp.	チャワンタケ目 セイヨウショウロ科	要注目種	絶滅寸前種	なし	分類的な取り扱いの再検討が必要であり、実態がよくわからない
29	▽	シロセイヨウショウロ	<i>Tuber</i> sp.	チャワンタケ目 セイヨウショウロ科	要注目種	絶滅寸前種	なし	分類的な取り扱いの再検討が必要であり、実態がよくわからない
30	▽	クロアミセイヨウショウロ	<i>Tuber</i> sp.	チャワンタケ目 セイヨウショウロ科	要注目種	絶滅寸前種	なし	分類的な取り扱いの再検討が必要であり、実態がよくわからない
31	▽	アカダマタケ	<i>Melanogaster</i> sp.	メラノガスター目 メラノガスター科	要注目種	絶滅寸前種	なし	分類的な取り扱いの再検討が必要であり、実態がよくわからない

32	▽	マメツブタケ	<i>Hymenogaster arenarius</i> Tul.	ヒメノガスター目 ヒメノガスター科	要注目種	準絶滅危惧種	なし	分類的な取り扱いの再検討が必要であり、実態がよくわからない
33	▽	ジロメタケ	<i>Genea sphaeroides</i> S. Imai	チャワンタケ目 ピロネマキン科	要注目種	準絶滅危惧種	なし	比較的発見例が多いがまだ実態がよくわからず、要注目とした。
34	▽	クルミタケ	<i>Hydnotrya tulasnei</i> Berk.et Br	チャワンタケ目 フクロシネタケ科	要注目種	準絶滅危惧種	なし	前回はクルミタケモドキとして掲載されたが、クルミタケと同一種とされ再検討が必要
35	▽	ウツロイモタケ	<i>Hydnotrya</i> sp.	チャワンタケ目 フクロシネタケ科	要注目種	準絶滅危惧種	なし	小林によるウツロイモタケとは別の種と思われる、分類的な取り扱いの再検討が必要であり、実態がよくわからない
36	○	ケロウジ	<i>Sarcodon scabrosus</i> (Fr.) Karst.	ヒダナシタケ目 イボタケ科	要注目種	リスト外	なし	生息域となる貧栄養なマツ林の衰退に伴い指定
37	○	ミヤマタマゴタケ	<i>Amanita imazekii</i> T. Oda, C. Tanaka & Tsuda	ハラタケ目 テングタケ科	要注目種	リスト外	なし	冷温帯から照葉樹まで、比較的良好的なブナ科森林に稀産
38	○	イロガワリヤマイグチ	<i>Leccinum intusrubens</i> (Corner) Hongo	イグチ目 イグチ科	要注目種	リスト外	なし	良好的な照葉樹林を指標すると考えられる
39	○	ブナシメジ	<i>Hypsizygos tessulatus</i> (Bull.) Singer	ハラタケ目 シメジ科	要注目種	リスト外	なし	ブナ倒木に発生するが、発見例は少ない
40	○	キイロクビオレタケ	<i>Cordyceps asyuensis</i> Kobayasi & Shimizu	ニクザキン目 バツカクキン科	要注目種	リスト外	情報不足 (DD)	芦生演習林で新種記載、
41	○	マツカサチャワンタケ	<i>Ciboria rufosca</i> (O. Weberb.) Sacc.	ピウタケ目 キンカクキン科	要注目種	リスト外	なし	モミ林に発生。府下においてはまとまったモミ林は希少である
42	●	クラマノジャガイモタケ	<i>Octaviania asterosperma</i> (Vitt.) O. Kuntze	スッポンタケ目 ジャガイモタケ科	リスト外	絶滅寸前種	なし	研究の進展によりジャガイモタケと同一種とされたため。
43	●	イボセイヨウシヨウロ	<i>Tuber indicum</i> Cooke et Masee	チャワンタケ目 セイヨウシヨウロ科	リスト外	絶滅寸前種	なし	公園などでの発見が相次いでいるため。また分類学的取り扱いにも再検討が進んでいる
44	●	ツキヨタケ	<i>Omphalotus japonicus</i> (Kawam.) Kirchm. & O.K.Mill.	ハラタケ目 キシメジ科	リスト外	準絶滅危惧種	なし	ブナ林においてはかつては少なくなく、生息環境としてのブナ林も減少していない。
45	●	キヌガサタケ	<i>Dictyophora indusiata</i> (Vent.: Pers.) Fisch.	スッポンタケ目 スッポンタケ科	リスト外	準絶滅危惧種	なし	発生環境としての竹林はむしろ増加している。過去の記録は近縁のアカダマキヌガサタケとの混同が懸念されるがキヌガサタケも少なくない
46	●	クモタケ	<i>Nomuraea atypicola</i> (Yasuda) Samson	バツカクキン目 スチルペラ科	リスト外	要注目種	なし	近年発見例は多い。
47	●	オオヤシャイグチ	<i>Austroboletus subvirens</i> (Hongo) Wolfe	イグチ目 オニイグチ科	リスト外	準絶滅危惧種	なし	近年発見例は多い。
48	●	コタマゴテングタケ	<i>Amanita citrina</i> (Schaeff.) Pers.	ハラタケ目 テングタケ科	リスト外	準絶滅危惧種	なし	近年発見例は多い。

△	アップリスト種	1種
▽	ダウンリスト種	13種
○	新規掲載された種	27種
●	リスト外に移行された種	7種
☆	和名変更など	0種
	計	48種